

令和元年度

富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報

# 富山市の遺跡物語

No.21



黒崎種田遺跡検出の井戸（鎌倉～室町時代）

黒崎種田遺跡では鎌倉～室町時代の鰐川氏に関わると推測される館跡が見つかりました。11基の井戸が時期差をもって造られ、代々この地に居を構えていたことを物語ります。また、木製品の残存状態が良く、井戸枠や漆器、下駄など多くの木製品の出土も特筆されます。

鰐川氏関連の館跡が発掘調査で明らかになったのは初めてです。館の構造や暮らしぶりに迫る重要な成果が得られました（10・11頁に本文）。

## 目次

I 史跡この1年	2	IV 研究報告	
1 北代縄文広場	2	1 小糸尾萩野遺跡等の表採資料について 〔堀内高史〕	31
2 妻中安田城跡歴史の広場	4	2 縄文時代中期堅穴建物の出入口について 〔塙沢祐一〕	34
II 埋蔵文化財調査概要報告	6	3 大谷城跡の試掘調査成果 〔堀内大介〕	42
III 令和元年度事業概要	14	4 中世富山城の北堀について 〔堀内大介〕	48
1 埋蔵文化財調査実績	14	5 富山城跡 2008年度調査報告補遺 —礎石の報告と礎石間隔の検討— 〔野垣好史〕	52
2 遺跡地図管理	19	6 富山城下町遺跡出土の貿易陶磁器について(2) 〔鹿島昌也・新宅輝久〕	56
3 史跡の保護・管理	20	7 富山市一春町出土の近代憲利瓶について 〔鹿島昌也・宮田康之〕	64
4 展示・普及	24		
5 刊行物	27		
6 活用	27		
7 調査研究	28		
8 研修等参加	30		
9 組織・事業費	30		

# I 史跡この1年

## 1 北代縄文広場

富山市北代縄文広場は、平成11（1999）年4月にオープンし、平成31（2019）年4月に20周年を迎えるました。オープン以来、約193千人（令和2年2月末現在）の方々に利用されています。

### （1）オープン20周年記念 ミニ企画展「新収蔵品展」～黒田コレクションから～（6/4～1/26）を開催しました

黒田コレクションは、現在の富山市北代に生まれた黒田伸一氏〔昭和15（1940）年没〕が早川莊作氏の教えを受け、北代を中心で採集した土器や石器などの考古資料です。

この資料は、平成31（2019）年1月15日に黒田伸一氏のご遺族から富山市教育委員会へ寄附されました。

寄附された資料は、土器（縄文土器・須恵器等）290点、石器等（打製石斧・磨製石斧・石棒等）117点の合計407点で、縄文時代の資料が約9割を占めます。

このうち167点に採集地が墨書きされ、中には採集日や土器の名称だけでなく、採集地の図まで記入されたものもありました。



採集地等が記入された土器・石器

### （2）ミニ企画展「奈良時代の北代遺跡」

（1/28～7/12）を開催しています

ミニ企画展では、富山市教育委員会が行った北代遺跡の発掘調査のうち、主に平成11年度の調査で出土した、土師器の長胴甕片・須恵器の甕片・环蓋片、鐵滓（製鉄時の不純物）等、18点を展示しています。

奈良時代の北代遺跡は、これまでの発掘調査で出土した、遺構や遺物の状況から、堅穴建物（住居）や開墾に必要な鉄の道具等を製作したと考えられる鍛冶工房など、住居とともに生産施設も造られ、開墾を進める農村的な集落としての性格が強くなり始めます。



奈良時代の土師器・須恵器等（中央上：長胴甕）

### （3）北代縄文考古楽講座を開講しました

本講座は考古学や縄文時代、郷土富山の歴史・文化など様々なジャンルをテーマに、講師と受講生が質疑応答しながらともに楽しく学ぶことを目的とした講座です。本年度は、吳羽丘陵の縄文遺跡や縄文人と黒曜石等、幅広いテーマで4回の講座を行いました。

(4) 富山市北代縄文広場ボランティアの会が「富山県教育功労者表彰」と「中日ボランティア賞」を受賞されました

富山市北代縄文広場ボランティアの会は、令和元年11月3日に富山県の文化などの分野で優れた業績を挙げた優良芸術文化団体として、「富山県教育功労者表彰」を受賞されました。

また、同年12月14日には、地域社会で人びとの心を温める社会活動を続ける団体として、

「中日ボランティア賞」を受賞されました。

なお、富山市北代縄文広場ボランティアの会は、20年の長きにわたり来場者の方々に北代遺跡の解説や展示物の説明等を行なっており喜ばれています。



富山県教育功労者表彰



中日ボランティア賞

(5) 「文化の秋の縄文土器づくり」、「文化の秋の縄文土器づくり作品展 2019」を開催しました

10月に全3回講座で、市内から4人の参加者が北代遺跡出土の串田新式土器（深鉢）の1/2サイズづくりに挑戦しました。見本となる土器を観察し、縄文人の造形の深さを感じながらの製作でした。十分乾燥させて縄文人と同様に野焼きを行い、完成した作品は北代縄文館で展示しました。

(6) 「夏休み！きただい子ども縄文教室」を開催しました（悠久の森 2019 連携事業）

子供たちは、縄文時代を題材にした紙芝居を鑑賞し、縄文土器や磨製石斧の観察を行いました。また、縄文土器づくりも体験することで、縄文人の暮らしについて想像をふくらませていました。



紙芝居鑑賞

(7) 速星中学校の生徒が北代縄文広場等で職場体験を行いました

学校外で職場体験活動に参加する「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」の一環として、中学生が北代縄文広場や埋蔵文化財センター及び安田城跡歴史の広場で体験活動を行いました。土器洗いや図書整理、復元建物の維持管理のほか、敷地内の除草・清掃といった活動を行いました。生徒たちは当初、学校との違いに戸惑いをみせていましたが、慣れてくると仕事の達成感を感じていました。（小松博幸）



社会に学ぶ「14歳の挑戦」

## 2 婦中安田城跡歴史の広場

### (1) 夏休み子ども歴史講座「秀吉と成政の戦いを見つめた城 安田城」

令和元年8月8日(木)、夏休み恒例の子ども歴史講座を開催し、児童や保護者など55人が史跡安田城跡について学びました。

この講座は、例年、市内の小学校の協力のもと、講師となる先生の派遣をお願いしています。日々児童の指導に携わる先生が講師となることで児童の習熟度に応じた解説が提供でき、また先生方にも市の歴史遺産である安田城跡について深く知っていただく機会となっています。今年度は、講師として蛭川小学校の前田雄一郎先生、山室小学校の小倉祐介先生、水橋西部小学校の松原玄尚先生をお迎えし、指導補助ボランティアとして教員OBの角田睦美さん、杉森慶子さんにご協力いただきました。

講座では、まず資料館で安田城の歴史を学びました。戦国期の武将の勢力範囲を画像で確認しながら、安田城が豊臣秀吉の越中出陣の際、秀吉方の前田氏部将が拠った城であり、富山城の佐々成政とは敵対する関係にあったという解説を聴き、その後、安田城の解説映像を視聴して城の概要をつかみました。

続いてフィールドワークでは、注目ポイントが記されたマップを手に城跡を探検し、城の隨所にある防御のための工夫を探っていました。本丸では高くて急傾斜である土壘の上から城跡全体を眺めながら、計画的に配置された土壘や堀の役割や、曲輪をつなぐ橋に隠された仕掛けなどについて説明を受けると、うなずきながらメモをとる様子がみられました。

最後に資料館にもどり、各自安田城について感じた事や意見を「探検レポート」にまとめて、理解の定着を図りました。レポートには、綿密に設計された城の構造を現地で体感することで戦国時代の戦いの厳しさを感じ取り、こうした城が身近に存在したことへの驚きを表現する児童が多くみられました。完成したレポートは、他の児童の意見を参考にし、家庭学習にも活用できるよう、後日レポート集にして参加者に配布しました。

本講座は今年度で5年目となります。毎年児童の好奇心を高める解説や円滑な行事の進行等について講師の先生方と相談し、年々進化を遂げています。今後も学校教育と連携した史跡活用プログラムを通じて、未来を担う子供たちに安田城跡の魅力や価値を伝え、参加した子供たちが郷土の大切な歴史遺産としてその重要性を発信する側へと育っていってくれれば幸いです。



## (2) 歴史講座「新庄城の歴史とその性格」

令和元年10月19日(土)、講師に高岡徹氏(とやま歴史的環境づくり研究会代表)をお迎えして、歴史講座を実施しました。高岡氏は約50年余り中世城館や戦国史の研究に携わっておられ、そのきっかけが中学校時代の新庄城との出会いであると話されました。長年研究されてきた様々な文献史料や地図等の分析に基づき、新庄城の歴史や構造、性格に迫る非常に内容の濃い講座で、参加者は熱心に聴き入っていました。以下、講座の要旨をまとめます。



- ① この地に新庄城が築かれた背景は、越中の東西を結ぶ北陸街道の屈曲点に位置し、各方面への道が分岐する交通の要衝にあったことが大きい。
- ② 新庄城の戦略的重要性は16世紀半ば頃よりピークを迎える、上杉謙信をはじめとした多彩な武将が入れ替わり新庄城に拠った。こうした城は越中の戦国時代には他に例がなく、最も重要な軍事拠点であったと評価される。
- ③ 発掘調査では多くの堀等が検出されており、新庄城は火災に遭いながらも改修して使われ続けたことが分かる。これは新庄城が利用価値の高い城であったことを示している。

## (3) ミニ企画展「戦国の城を掘る～小出城と願海寺城～」

小出城と願海寺城は、天正年間に織田信長勢と越後の上杉勢との間で越中支配をめぐる攻防戦が繰り広げられた城として古文書にたびたび登場する城です。



本展(R1.12/3～R2.7/12)では、城の存在を裏付ける大規模な堀の調査写真や、戦を想起させる武器や被熟した遺物、様々な暮らしの道具等を展示し、近年明らかになりつつある城の姿を紹介しています。

令和2年1月29日(水)の展示解説会では、展示品の解説とともに、両城の歴史や自然環境、越中戦国史における意義等について説明しました。



## (4) 安田城跡資料館の配布資料を充実させました！

当館では、様々な防御の工夫が詰まった中世城郭の面白さを知っていただくため、安田城をはじめとした富山の中世城郭に関する資料配布を行っています。



令和元年7月には、安田城の構造や安田城跡歴史の広場にある施設等をまとめた「安田城跡みどころマップ」の配布を開始しました。資料館の解説映像で基礎知識を得た後、マップを参考に城跡をまわると、ポイントを逃さず見学できます。

令和2年2月からは、平成27年度の設置以来大変好評をいただいている「縄張り図でめぐる富山の城」コーナーでの縄張り図の配布を31城増やして計63城としました。この縄張り図は城郭研究家である佐伯哲也氏の協力を得て作成しているものです。城を熟知する専門家ならではの推定進入経路入りの縄張り図や各城の縄張りの解説、城散策の難易度判定などを掲載しています。資料を活用して、富山の城に一層親しんでください。（大野英子）

## II 埋蔵文化財調査概要報告

### 調査概要報告1 周堤帯をもつ弥生時代の竪穴建物を確認

うわのいだ  
**上野井田遺跡**

(二俣地内)

#### 1 遺跡のあらまし

この遺跡は、富山市南部の二俣川と土川に挟まれた標高25mの緩斜面状地に立地します。調査区の西に接して市道が南北に通っています。

これまでの調査では、市道の東側で、主に奈良・平安時代の集落が営まれたことがわかっています。市道の西側と比べると地形が高くなっています。洪水を避け、集落を営むのに適した場所であったことがわかります。



調査区全景（北西から）

#### 2 調査の概要

病院建設に先立ち、事業地内のうち 2,524.19 m<sup>2</sup>を対象に発掘調査を行いました。その結果、縄文時代後期中葉、弥生時代終末期、奈良・平安時代の遺構を確認しました。出土遺物には、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、珠洲、越中瀬戸、鉄石斧、種子類があります。

**縄文時代** 土坑が見つかりました。出土遺物は縄文時代後期中葉の深鉢と種子類があります。調査区周辺に人が住み始めた頃の遺構と考えられます。

**弥生時代** 竪穴建物や土坑が見つかりました。この時期の遺構は、主に調査区の南東側に分布します。調査区の北東には旧河道を確認しており、今回の調査区は、旧河道沿いの集落東端付近にあたると考えられます。竪穴建物は、直径約8mの円形で、周囲に幅1~1.5mの周堤帯があります。竪穴建物や土坑から弥生土器がまとまって出土しました。弥生土器の中には赤彩された土器もあります。

弥生時代後期になると富山市内では集落遺跡が急増します。その頃に調査区一帯にも集落が営まれたと考えられます。

**奈良・平安時代** 挖立柱建物群、竪穴建物、土坑、柱穴が見つかりました。挖立柱建物は、3間×2間の同じ規格の建物を南北方向に並立させるなど、建物配置に計画性が見られます。柱穴のうち数ヶ所から完形の須恵器が伏せられた状態で出土しました。土坑には炭を敷き詰めたものがあり、遺物が全く出土しないためその性格は不明です。



弥生時代の竪穴建物



須恵器の収められた柱穴

#### 3 発掘調査の成果

上野井田遺跡では、これまで見つかっていた奈良・平安時代の集落だけでなく、縄文時代後期中葉には人々が暮らし始め、弥生時代終末期には集落が営まれたことがわかりました。周堤帯をもつ竪穴建物は県東部で初の調査例となります。奈良・平安時代の挖立柱建物群の性格は、南北を意識した規則的な配置から公的な建物などの性格が考えられます。今後出土遺物の整理作業が進むことにより、遺跡の様相が明らかになることでしょう。（細辻嘉門）

### 1 遺跡のあらまし

今年度、富山市民俗民芸村内の岩羽丘陵上で古墳とみられる遺構1基を新たに確認しました。

同じ尾根では、過去に古墳時代後期の横穴墓群が15基見つかっています。今回、法面保護工事に伴い、横穴墓が見つかることを考慮し工事立会を行ったところ、尾根の頂部で古墳の墓壙（墓穴）とみられる痕跡を確認しました。

古墳の北半分は、昭和期の土砂採取で尾根ごと削り取られ、南半分ほどが残った状態です。頂上からは東方向に富山平野が一望できます。



古墳の遠景（北西から）奥は富山平野 松原建設株式会社提供

### 2 調査の概要

尾根の頂部に、掘り込まれた墓壙とみられる断面がみえます（右写真）。墓壙の規模は幅8m、深さ約2mで、底面の2ヶ所に集石があります。この石の間に遺体を納めた棺が置かれたと思われますが、断面には棺の痕跡（木や粘土等）がみえないため、棺自体はもう少し奥にあるか、逆に手前側に存在した可能性があります。



墓壙の断面（白点線の範囲）

墳形は円形か方形とみられます、はつきりしません。削られた尾根の側に前方部が存在したこととも考えられ、前方後円（方）墳であった可能性も残ります。墳丘は尾根を削って成形しており、盛土はほとんどみられません。墳丘頂部は幅10m程の平坦面となっています。墳丘規模は、西側の裾の位置から復元すると30m前後と推測されますが、東側の裾の位置等、不明瞭な部分もあるため規模は変わるべき可能性があります。

出土遺物がなく詳しい時期は不明ですが、墓壙や墳丘の状況から弥生時代終末期～古墳時代前期墳と考えられます。

### 3 今後の課題

近辺はこれまで古墳時代後期の横穴墓群や古墳が存在する場所として知られていましたが、弥生～古墳時代前期墳にも古墳が築かれた重要な地域だった可能性が高まりました。墓壙の規模だけみれば、県内でもかなり大型に属し、有力者がいたことを物語ります。今後、詳しい時期や同じ岩羽丘陵にある百塚古墳群、王塚・千坊山遺跡群の王塚との関係の究明を通して、古墳時代の勢力関係を見直す必要も生じると思われます。

（野垣好史）

### 1 遺跡のあらまし

この遺跡は、富山市北部の常願寺川左岸、標高6~7mの氾濫平野に立地します。

調査区の南300mには、国道415号線が東西に通り、周辺には富山県運転免許センターやアルペンスタジアムがあります。

これまでに実施した他の試掘調査では遺跡は見つかっておらず、今回が初の本発掘調査となりました。

遺跡の分布調査では、縄文土器(後~晚期)、弥生土器、土師器が採集されています。

### 2 調査の概要

個人住宅の地盤改良工事に先立ち、工事計画地のうち60m<sup>2</sup>を対象に発掘調査を行いました。その結果、鎌倉~室町時代と江戸時代の2時期の遺構を確認しました。

出土遺物には、須恵器、中世土師器、珠洲、瓦質土器、越中瀬戸、瀬戸美濃、唐津、砥石があります。

**鎌倉~室町時代** この時期の遺構は、主に調査区の中央から南側で見つかっています。遺構は溝と土坑があります。溝は東西方向と南北方向が直交する部分が見つかりました。東西方向の溝が南北方向の溝よりも規模が大きく、埋土には有機物が含まれていました。東西方向の溝が主流の水路と考えられます。

土坑は2基一組で東西方向の直線上に並びます。湧水層まで掘りぬいており、井戸と考えられる一方で、間隔や配置に一定の法則が見られるところから、建物跡の可能性もあります。

**江戸時代** この時期の遺構は調査区の北側に集中します。東西方向の溝の中にピットが2基あります。ピットの間隔は五尺を測ります。遺構の形態から、地中梁をもつ布掘り建物の基礎の可能性があります。柱根などがないため断定はできません。

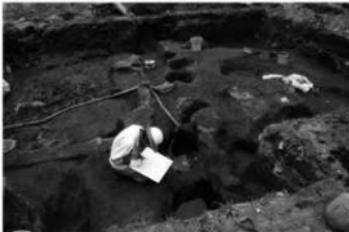
### 3 遺跡の性格

高島遺跡には中世~近世の集落が広がることが明らかになりました。

出土遺物には土師器・須恵器があることから、集落の形成は奈良・平安時代にさかのぼる可能性があります。



調査区全景（北東から）



鎌倉~室町時代の遺構



近世の遺構

(細辻嘉門)

## 1 遺跡のあらまし

この遺跡は、富山市北西部の井田川左岸の平野部、標高 13m に立地します。西側 250m には南北に延びる呉羽丘陵があります。

過去の調査で、朝日小学校内に鎌倉～室町時代の二重の溝で囲まれた居館が存在しており、その南に奈良時代から江戸時代まで継続して集落が営まれたことがわかっています。

## 2 調査の概要

朝日小学校プール改築工事に伴う発掘調査で、昭和 44 年に建築された旧プールの周囲 152 m<sup>2</sup>を対象に調査を行いました。近接する調査では古代と中世 2 時期の遺構面を確認していることから、上層と下層 2 面の調査を行いました。

調査の結果、上層は平安時代末から室町時代初頭（12 世紀後半～14 世紀前半）の遺構を確認しました。下層は遺構が確認できませんでした。

出土遺物は、かわらけ、八尾焼、珠洲焼、越前焼、青磁、土鍤などがあります。

## 3 見つかった遺構・遺物から

見つかった遺構は、平安時代末から室町時代初頭のビット、土坑、溝（堀）、礎石建物、堅穴状遺構、かわらけ廃棄土坑などです。

調査区北端に堅穴状遺構 2 基、礎石建物 1 棟が見つかりました。13 世紀初頭の堅穴状遺構が埋没後、13 世紀中頃に新しい堅穴状遺構が掘削されました。また、礎石建物も古い堅穴状遺構の埋没後に建てられており、時期は不明ですが鎌倉時代のものと考えられます。礎石建物は調査区外に広がるため規模は不明ですが、東側柱筋は最低 4 間（柱間 2.0m）あります。

調査区南端でかわらけ廃棄土坑 1 基が見つかりました。土坑には 13 世紀後半のかわらけが炭化物を含む土とともに大量に廃棄されていました。土坑は調査区外にも広がることから、右の写真以上のかわらけが廃棄されていると考えられます。

調査区中央北側で平安時代末～室町時代初頭の新旧 2 時期の溝が見つかりました。溝の内部に礎石建物やかわらけ廃棄土坑などが見つかるから、この溝が居館を囲む堀であった可能性が高いと考えられます。近接する調査区には同時期の二重に巡る居館の堀が見つかっており、朝日小学校内に複数の居館が存在していたと推測できます。（堀内大介）



調査区全景（上が北東）  
※斜め部分は旧プールによる堆積範囲



鎌倉時代の礎石建物



かわらけ廃棄土坑出土のかわらけ

## 1 遺跡のあらまし

この遺跡は、富山市南部の平野部に位置し、調査地の西 600m には熊野川、東 200m には土川が南北に流れ、東には飛驒街道が通る河川水運や陸上交通の要衝に立地します。標高は 21m を測ります。

これまでに、遺跡北部の工場増築・駐車場造成に伴う発掘調査で、古代の竪穴建物や暗文土器がみつかり、中世では 12～13 世紀の掘立柱建物や中国青磁の盤、青白磁の梅瓶片などが出土する集落を確認していました。

本遺跡の南に隣接して室町幕府の政所代を務めた鰐川氏一族の出自の地とされる鰐川館跡（東西約 110m、南北約 250m の県内最大級の中世居館跡）が所在します。富山県医師会館付近に北郭、曹洞宗最勝寺付近に南郭を有し、その周囲を堀や土塁で囲まれた構造でした。

江戸時代に描かれた古絵図「鰐川館跡之図」（金沢市立立川図書館蔵）には、この館跡の北側に地元で「屋敷地」と伝えるところがあったと記されていますが、詳細は不明とされていました。

## 2 調査の概要

県医師会館新築および駐車場造成工事に伴い 785 m<sup>2</sup> の発掘調査を行いました。主な遺構の時期は鎌倉時代後期～室町時代（13 世紀～15 世紀）が中心です。L 字状に曲がる溝で区画された屋敷跡とその周囲に井戸跡 11 基（石組み・木組み・素掘り）や竪穴状遺構、馬小屋、石室などの遺構を検出しました。

## 3 武士の館跡

馬小屋 溝で区画された屋敷跡の北側に長さ 4.4m、幅 1.6m、深さ 0.43m の長方形の土坑が見つかりました。中央付近の底からは曲物が検出されました。この土坑は馬小屋と推測され、同じ形態の遺構が富山市住海宮田遺跡などでも検出されています。曲物は馬の排泄物を溜めていた肥溜めとみられ、糞の肥料などに利用していたと推測されます。

この土坑からは漆器や編み物、柄杓、越前焼の陶器が出土地しました。土坑から北に 20m ほ



鰐川館跡と周辺の城館 文献 1 より



調査区全景（北から）



馬小屋（上が東）

ど離れた溝跡から 3~4 歳位のメスの馬の歯が出土し、この屋敷地内に馬がいたことが裏付けられました。土坑から出土した越前焼の陶器は小型で、馬に乗る武士が今のスマートフォンの様に携帯しやすい硯を持っていたようです。

**井戸祭祀** 調査区東寄りで検出された石組井戸で、井戸の埋め戻し時に漆器や箸状木製品、竹、熱を受けたかわらけなどを用いた祭祀が行われていました。

SE61 では、石組を最下段のみ残して、その石の上に漆器小皿と箸状木製品が 2 本組み合わせて並べられていました。その様子は蜷川氏の家紋の一つである「合子に箸」を想起させます。家紋を意識した祭祀行為が行われていたとしたら、蜷川氏と関連の深い屋敷地となり、謎だった「合子に箸」家紋の由来解明の手掛かりになるかもしれません。

**武士の持ち物** 遺跡からは多数の漆器などの木製品や中世土師器（かわらけ）、刻書（「無」か「天」）のある珠洲焼、古瀬戸、天目茶碗、中国青磁などの陶磁器、石臼などが整理箱 60 箱分程度出土しました。鎌倉～室町時代（13~15 世紀）の遺物と推測されます。なかには武士が帶刀した漆塗りの刀の鐔（切羽）もみられます。

注目されるのは、小穴から金が付着した中世土師器の碎片が出土したことです。金付き土器は中世の出土例としては県内初めてで、岩手県の世界遺産奥州藤原氏の館跡である柳ヶ御所遺跡や新潟県胎内市国史跡奥山荘城館遺跡など、地域の拠点となる城館遺跡から出土しています。

室町時代前期には京都金閣寺にみられる武家と公家の文化が融合した室町文化（北山文化）が栄えます。金付き土器の出土は富山にもその一端が浸透していたことを物語ります。

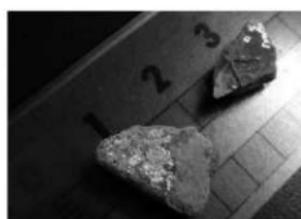
#### 蜷川氏関連の屋敷地 発掘された遺構の時期

が、蜷川氏がこの地に館を構えていた時期と重なることからも、蜷川氏一族の居館かその家臣の有力武士が暮らす居館が営まれていたと推測されます。（鹿島昌也）

#### 文献

1 とやま歴史的環境づくり研究会 1998『蜷川館跡調査報告』

2 富山市教育委員会 2005『富山市黒崎種田遺跡発掘調査報告書』



金付き土器片



出土した馬の歯（上）と馬の頭骨の模型



祭祀が行われた井戸（SE61）



「合子に箸」「三つ巴」  
蜷川氏家紋

### 1 遺跡のあらまし

願海寺城跡は、富山市西部の新堀川右岸の射水平野低地帯に立地し、標高1~4mを測ります。南東3kmには南北に延びる呉羽丘陵があります。

この城は、上杉方に与した越中の国人 寺崎民部左衛門盛永が城主だった城で、天正9年(1581)年に織田方に攻められ落城したと伝えられます。天正9年の『田中尚賢等連署状』から實城(本丸)・二之廻輪(二の丸)の2郭以上の曲輪からなる複郭式の城であったことが分かります。願海寺小字館本地内にある加茂社稻荷神社周辺は「ホリノウチ」という呼称が残り、神社が本丸跡とされてきました。

これまでの調査で、戦国時代の二重に巡る居館の堀、土橋、井戸、区画溝などが検出され、かわらけ、瀬戸焼、珠洲焼、輸入陶磁器、木簡、将棋駒、漆器などの遺物が出土しています。堀の検出状況などから神社周辺に南郭(實城)と北郭(二之廻輪)の存在を推定しました。また、神社の北東400m付近には城下町の広がりを確認しています。

### 2 調査の概要

工場増築に伴い擁壁と工場基礎部分の約84m<sup>2</sup>の発掘調査を行いました。

調査の結果、逆L字状に屈曲する堀(検出長:東西方向17m、南北方向12m)を確認しました。堀肩は緩やかですが、中心付近になると急に深くなっています。この部分が旧堀であり、新堀は埋没した旧堀を再掘削した可能性があります。新堀は、幅約9m(約5間)を測り、屈曲部で最大幅13.6mを測ります。深さは1.0mです。旧堀は、幅5.4m(約3間)以上を測りますが、深さは不明です(湧水が激しく幅が狭い調査区で堀底までの調査が困難だったため)。

新堀の南肩から東肩にかけて土砂の斜め堆積がみられ、土壘の崩落土の可能性が高く、土壘の内側が曲輪であったと考えられます。

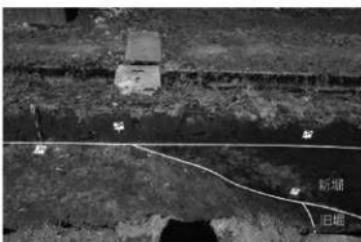
堀からは、かわらけ、越前焼、青磁、礎などが出土しました。また、天正9年落城を示す遺物として被熱礎も出土しています。

### 3まとめ

願海寺城はこれまでに加茂社稻荷神社周辺に南郭と北郭の存在を推定していましたが、今回の堀を確認したことにより1つの曲輪である可能性が高まりました。この曲輪が本丸(實城)と考えられます。このことは不明確であった城の細張を解明するための貴重な手掛かりとなります。(堀内大介)



堀 SD01 全景（上が北）



堀 SD01 南堀肩付近の断面（東から）



堀出土の被熱礎

## 調査概要報告 7 大規模集落の範囲が明確に

## 豊田大塚・中吉原遺跡

(豊田本町地内)

### 1 遺跡のあらまし

遺跡は、神通川と常願寺川の間の標高約8mの微高地に位置します。

過去の調査で遺跡の北部を中心に弥生～古墳時代、平安時代、鎌倉時代の集落が確認されていました。特に弥生～古墳時代集落は大規模で、土器等が多量に出土しています。また、平安時代は祭祀を行っていた遺跡でした。



沼跡の落ち込み（夜間工事）

### 2 調査の概要

水道・ガス管の敷設に伴い工事立会を行ったところ、弥生～古墳時代を中心に、その他、中世、江戸時代の集落遺構と遺物が見つかりました。集落の北側は沼跡が広がり、多量の弥生土器が廃棄された状況を確認しました。

工事は、遺跡を縱断するように長く掘ったため、集落の範囲が明確になってきました。過去の調査成果も合わせると、およそ南北150m、東西300mの範囲に複数の時代の集落が展開していたことが推測できます。（野垣好史）

## 調査概要報告 8

## 下呂遺跡・小長沢II遺跡

(婦中町小長沢地区)

### 1 遺跡のあらまし

調査地は、西を羽根丘陵、東を辺呂川に挟まれた氾濫平野に立地する、婦中町小長沢地区にあります。標高は18～21mを測ります。羽根丘陵は、縄文時代前期には平岡遺跡に大規模な集落が営まれます。弥生時代後期～古墳時代前期には、山陰に起源をもつ四隅突出型埴丘墓や県内でも有数の大きさの前方後方墳、集落からなる史跡王塚・千坊山遺跡群が広がり、古墳時代後期には二本榎遺跡の横穴式石室をもつ円墳など、この地域を治めた有力者や家族の古墳が造られます。



10 トレンチ 溝検出状況

### 2 調査の概要

県営は場整備事業に伴い水田 3.8ha を対象に遺跡の有無を確認する試掘調査を行いました。

今回の調査で、下呂遺跡では調査対象地の中央で、奈良・平安時代の溝が見つかりました。小長沢II遺跡では調査対象地の東側で、弥生時代～古墳時代の溝、奈良・平安時代の土坑が見つかりました。

出土遺物には、弥生土器、古墳時代の土師器、須恵器、近世陶磁器があります。

### 3まとめ

試掘調査の結果、下呂遺跡は狭い範囲に遺跡が残っていることがわかりました。小長沢II遺跡では、今回調査対象地の南西隣の未調査地にも遺跡が広がっている可能性があります。

小長沢II遺跡で見つかった溝が弥生～古墳時代であることから、丘陵上に墳墓を築いた人々が、この地域で生活を営んでいたことがわかりました。（細辻嘉門）

### III 令和元年度事業概要

#### 1 埋蔵文化財調査実績

(1) 発掘調査 開発に先立ち、遺跡を記録保存することなどを目的とした調査です。

遺跡名(遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(m <sup>2</sup> )	調査結果	遺跡の種類
高島(2010050)	高島	個人住宅建築	60	中世溝、中世土坑、中世不明遺構、近世溝、近世土坑、近世不明遺構、不明土坑／古代須恵器、中世土師器、中世珠洲、江戸土師器、江戸越中瀬戸、江戸越前、江戸唐津、江戸瓦質土器、近代瀬戸美濃、近代越中丸山、不明志野、不明陶磁器、不明土製品、不明石製品	集落
願海寺城跡(2010091)	願海寺字道本	工場増築	86.67	戰国塙、江戸土坑、不明溝、不明土坑、不明ピット／古代須恵器、古代土師器、宝町青磁、戰国かわらけ、戰国越前、戰国鐵、中世白磁、中世珠洲、江戸越中瀬戸、江戸唐津、江戸肥前系磁器	城館
友坂(2010429)	歸中町下条	朝日小学校ブルーリニューアル改築	152	鎌倉～室町磁石建物、鎌倉～室町溝、鎌倉～室町土坑、鎌倉～室町ピット／平安土師器、鎌倉～室町かわらけ、鎌倉～室町珠洲、鎌倉～室町八尾、鎌倉～室町青磁、鎌倉～室町白磁、鎌倉～室町鐵製品、鎌倉～室町土鍾、鎌倉～室町羽口、鎌倉～室町砥石、鎌倉～室町八骨	集落・城館
黒崎種田(2010550)	黒崎字種田割	医師会館建設・駐車場整備	784.87	中世井戸、中世溝、中世土坑、中世馬小屋、中世ピット、中世柱穴／中世土師器、中世珠洲、中世八尾、中世越前、中世古瀬戸、中世青磁、中世白磁、中世陶磁、中世砾石、中世基石、中世石臼、中世漆器、中世井戸桿、中世曲輪、中世柄杓、中世桶底、中世横樋、中世下駄、中世草履、中世編み物、中世柱材、中世箸、中世切羽、中世不明織製品、中世馬糞	集落
上野井田(2010557)	二俣	病院建設	2,524.19	縄文(匱)土坑、弥生(終)堅穴建物、弥生(終)溝、弥生(終)土坑、平安掘立柱建物、平安溝、平安土坑、平安柱穴／縄文(晚)縄文土器、弥生(後)弥生土器、弥生(終)弥生土器、平安土師器、平安須恵器、中世珠洲、不明原石(鉄石英)	集落
計5件			3,607.73		

(2) 試掘調査・工事立会 開発予定地内の遺跡の有無などを確認する調査です。＊は工事立会

遺跡名(遺跡No.)	所在地	調査原因	対象面積(m <sup>2</sup> )	調査結果
打出(2010002)＊	打出	農業集落排水事業打出地区下水管布設工事	78	遺跡なし
岩瀬天神(2010005)	岩瀬古志町	個人住宅建築	370	遺跡なし
大村城跡(2010009)	海岸通字古城跡割	宅地造成	861	弥生土器、江戸陶磁器
典羽本郷(2010016)	本郷中部	小学校耐震補強設備工事	49	遺跡なし
大塚(2010017)	大塚字矢田島	個人住宅建築	234	戰国溝、戰国土坑／戰国土師器皿、戰国板材、江戸唐津
大塚(2010017)	大塚	個人住宅建築	218.72	中世溝、中世土坑／中世珠洲、中世燒失板材、江戸近世陶器
今市(2010023)	布目	個人住宅建築	231.39	江戸陶器
今市(2010023)	布目	分譲住宅建築	232	明治陶磁器
今市(2010023)	布目	個人住宅建築	199.56	遺跡なし

遺跡名(遺跡No.)	所在地	調査原因	対象面積(m <sup>2</sup> )	調査結果
今市(2010023)	布目	個人住宅建築	354.71	遺跡なし
今市(2010023)	八町東	個人住宅建築	945.42	遺跡なし
今市(2010023)	八町	個人住宅建築	1,318.81	遺跡なし
今市(2010023)	布目	個人住宅建築	283.13	不明溝／なし
今市(2010023) *	四方荒屋	鉄塔敷地舗装工事	259	遺跡なし
今市(2010023) *	布目	携帯基地局設置工事	4	遺跡なし
宮尾(2010028)	宮尾	個人住宅建築	406	江戸土坑、江戸溝、江戸ピット／古代須恵器、江戸前素陶磁器、江戸瓦器
草島(2010029)	草島	幼稚園施設建築	199.4	遺跡なし
森(2010031)	森1丁目	個人住宅建築	257.95	縄文土器
森(2010031)	森1丁目	個人住宅建築	176	遺跡なし
森B(2010032)	森3丁目	納戸建築	29.8	遺跡なし
森B(2010032)	森3丁目	店舗建築	946	遺跡なし
森B(2010032)	森3丁目	個人住宅建築	391	遺跡なし
蓮町(2010033)	蓮町4丁目	分譲宅地造成	1,217	江戸越中漚戸
蓮町(2010033)	蓮町5丁目	個人住宅建築	340.78	遺跡なし
蓮町(2010033)	蓮町5丁目	個人住宅建築	376	遺跡なし
米田大覚 (2010034)	米田町1丁目	運動場造成	560	古代土坑、古代柱穴／古代須恵器、古代土師器
米田大覚 (2010034)	米田町1丁目	事務所建築	990	遺跡なし
水落南(2010037)	水落	市道水落米田線改良工事	190	遺跡なし
水落南(2010037)	水落	市道水落米田線改良工事	190	遺跡なし
飯野新屋 (2010038) *	新屋助田割	携帯基地局設置工事	4	遺跡なし
浜黒崎飯田 (2010041)	浜黒崎	店舗建築	50	遺跡なし
高島(2010050)	高島	個人住宅建築	244	古代土坑、中世土坑、江戸土坑／古代土師器、中世土師器、江戸越中漚戸
針原中町I (2010051)	針原中町字竹花	個人住宅建築	182.62	遺跡なし
宮町(2010053)	宮町	個人住宅建築	264.47	遺跡なし
水橋荒町・辻ヶ堂 (2010056)	水橋辻ヶ堂	個人住宅建築	404.41	遺跡なし
水橋荒町・辻ヶ堂 (2010056)	辻ヶ堂字来作	個人住宅建築	255.17	遺跡なし
水橋荒町・辻ヶ堂 (2010056)	水橋辻ヶ堂字天神	個人住宅建築	429.86	不明漆器
水橋永剣 (2010063)	水橋館町字義道寺	資材置場造成	729	弥生溝／弥生土器
水橋小出 (2010067)	水橋小出	個人住宅建築	767.55	弥生(中)弥生土器
東老田I (2010085) *	東老田	東老田地区配水管布設替工事	231	遺跡なし
東老田I (2010085) *	東老田	下水管布設工事	78	遺跡なし
廟海寺城跡 (2010091)	野町	個人住宅建築	71.74	遺跡なし
道分茶屋 (2010138)	與羽町	個人住宅建築	357.56	遺跡なし
山谷谷I (2010141)	與羽町	個人住宅建築	471.79	縄文土器
與羽本町 (2010147) *	與羽町	個人住宅建築	121.85	遺跡なし
茶屋町蒲山古墳群 (2010168)	茶屋町	與羽丘陵フットバス連絡橋整備事業	37	明治瓦
茶屋町東 (2010177) *	安養坊	與羽山公園園路整備工事	170	遺跡なし
與羽富田町 (2010182)	北代	建売住宅建築	268.44	遺跡なし

遺跡名(遺跡No.)	所在地	調査原因	対象面積(m <sup>2</sup> )	調査結果
與羽富田町 (2010182)	北代	個人住宅建築	282.46	遺跡なし
與羽富田町 (2010182)	北代	個人住宅建築	431	遺跡なし
北代東(2010208)	長岡	個人住宅建築	501.9	遺跡なし
香神山横穴墓群 (2010225) *	安養坊字番神山	民俗民芸村周辺法面保護工事	984.3	弥生(終)～古墳(前)古墳、古墳(後)横穴墓／墓壇内縫
八町Ⅱ(2010228) *	北代中部	北代中部地区配水管布設替工事	270	遺跡なし
百塚住吉 (2010232)	宮尾	個人住宅建築	400.67	古代土師器、明治磁器
百塚住吉D (2010235) *	寺島	携帯基地局設置工事	4	遺跡なし
百塚(2010237)	百塚	個人住宅建築	689.32	縄文土器、江戸陶器
百塚B(2010238)	宮尾	個人住宅建築	273.08	遺跡なし
豊田本町一丁目 (2010244) *	豊田本町1丁目	市道城川原豊田線側溝改良工事に伴う移設工事	45	不明陶磁器
豊田本町一丁目 (2010244) *	豊田本町1丁目	市道城川原豊田線側溝改良工事	200	遺跡なし
豊田大塚・中吉原 (2010246) *	豊田本町1丁目 ～3丁目	赤江幹線配水管布設替工事	594	弥生土坑、弥生溝、古代溝、中世土坑、江戸溝／縄文土器、弥生土器、古代土師器、古代須恵器、中世珠洲、江戸陶磁器
豊田大塚・中吉原 (2010246) *	豊田本町2丁目	ガス管本設工事	260	弥生～古墳土坑／縄文(晩)縄文土器、弥生土器、古墳土器、古代土師器、古代須恵器、中世珠洲、江戸陶磁器、不明木、不明黒曜石、不明土製品、不明ガラス製品
下富居(2010250)	下富居地内	富山駅跡発掘工事	300	弥生土器
中富居(2010251)	上富居2丁目	分譲宅地造成	4,500	江戸陶器
中富居(2010251)	中富居	共同住宅建築	1,522.15	遺跡なし
中富居(2010251)	上富居3丁目	個人住宅建築	230.02	遺跡なし
水橋金広・中馬場 (2010286)	水橋中馬場	除雪基地建築	820	古代溝、古代土坑、古代ピット／古代土師器、古代須恵器、中世珠洲、中世土師器
水橋金広・中馬場 (2010286) *	水橋中馬場	市道水橋金広中馬場線外1線改良工事	40	江戸唐津、江戸陶器
田伏・佐野竹 (2010298) *	水橋田伏	市道水橋金広中馬場線外1線改良工事	60	遺跡なし
柳谷(2010343) *	柳谷	市道柳谷4号線改良工事	40	不明土坑／なし
花ノ木C (2010354) *	東老田	東老田地区配水管布設替工事	129	遺跡なし
住吉南III (2010359)	住吉	個人住宅建築	595.05	遺跡なし
杉谷(2010398) *	杉谷	ライフルライン再生(給排水設備)改修工事	235.5	遺跡なし
金屋古屋敷 (2010420) *	金屋	市道金屋21号線改良工事	23	遺跡なし
金屋古屋敷 (2010420)	金屋	個人住宅建築	171.24	遺跡なし
友坂(2010429)	緑中町下条	小学校プール改修工事	713.25	中世溝、中世土坑、中世柱穴／古代土師器、中世土師器
大峪城跡 (2010439)	五福	芝生スポーツ広場整備工事	15,658	戦国土坑、戦国溝、戦国土壘、戦国堀、戦国盛土／戦国かわらけ、戦国堀、江戸陶器、明治瓦、不明釘
大峪城跡 (2010439)	五福字宇野津	共同住宅建築	578.84	不明溝／なし
富山城跡 (2010442)	桜木町	複合飲食店施設建築	114.71	戦国溝／戦国かわらけ、戦国瀬戸美濃、江戸瀬戸美濃、江戸近世陶磁器、近現代瓦
富山城跡 (2010442)	本丸	城址公園(松川周辺エリア)整備工事	260	江戸繩、江戸築堤／なし
富山城跡 (2010442) *	本丸	図書館旧本館解体工事	267.5	戦国堀／なし
富山城跡 (2010442) *	總曲輪3丁目	電力供給工事に伴う管路新設工事	14	江戸瀬戸美濃、不明磁器

遺跡名(遺跡No.)	所在地	調査原因	対象面積(m <sup>2</sup> )	調査結果
富山城跡 (2010442) *	丸の内2丁目	車庫建築	207.53	遺跡なし
富山城跡 (2010442)	絶曲輪1丁目	個人住宅建築	166.77	江戸瀬戸美濃、江戸唐津
千石町(2010444)	千石町3丁目	駐車場造成	120	江戸陶磁器
千石町(2010444)	千石町5丁目	個人住宅建築	157.42	遺跡なし
千石町(2010444)	千石町3丁目	個人住宅建築	283.87	江戸土師器、江戸陶磁器
相生町(2010445)	相生町	個人住宅建築	209.67	近世谷地形／江戸越中瀬戸、江戸小杉、江戸伊万里、江戸瓦、江戸硯、江戸木製品、江戸竹製品、江戸土製品、明治陶磁器
大泉(2010448)	大泉中町	個人住宅建築	225.57	遺跡なし
向新庄(2010451) *	向新庄町4丁目	向新庄地区水路改良工事	90	遺跡なし
二本榎(2010534)	婦中町小長沢	市道小長沢二本榎線 道路改良工事	873	遺跡なし
下邑(2010542)	婦中町下邑	個人住宅建築	226.24	遺跡なし
下邑東(2010543)	婦中町羽根	個人住宅建築	369	遺跡なし
黒崎種田 (2010550)	黒崎字種田割	共同住宅建築	862	鎌倉～室町堀、鎌倉～宝町河川跡／古代土師器、鎌倉～室町土師器、鎌倉～宝町署、江戸肥前系磁器
黒崎種田 (2010550) *	黒崎字種田割	共同住宅建築	875.98	遺跡なし
黒崎種田 (2010550)	黒崎字塙田割	駐車場造成	3843	古代土師器、古代須恵器、中世瀬戸美濃
上野井田 (2010557)	上野	工場建築	611	遺跡なし
上野井田 (2010557)	二俣新町	個人住宅建築	279.32	不明ピット／なし
山室東田 (2010560)	山室字東田割	分譲宅地造成	592	遺跡なし
山室東田 (2010560)	山室字東田割	共同住宅建築	2530.74	平安ピット、平安土坑、平安溝、平安谷／平安須恵器、平安土師器、平安被熟綿、平安串状木製品、平安署、平安柱、不明石臼
本郷椎木 (2010561)	本郷町字椎木割	分譲宅地造成	790	古墳土師器、中世土師器(皿)、江戸肥前器
本郷椎木 (2010561)	本郷町字椎木割	分譲宅地造成	860	古代土師器
本郷水上 (2010562)	本郷町字水上割	宅地造成	2815.3	遺跡なし
上新保(2010564)	上堀南町	個人住宅建築	308	遺跡なし
上新保(2010564)	上新保	分譲宅地造成	3,900	遺跡なし
富岡(2010604)	婦中町富岡	車庫建築	78.3	遺跡なし
千里F(2010625)	婦中町千里	個人住宅建築	220	遺跡なし
千里D(2010633)	婦中町千里	資材置場造成	247	遺跡なし
千里E(2010634)	婦中町千里	個人住宅建築	303.46	遺跡なし
千里E(2010634)	婦中町千里	店舗・共同住宅建築	1406	遺跡なし
上吉川I (2010635) *	婦中町上吉川	車庫建築	244.07	遺跡なし
南部I(2010636)	婦中町高日附	個人住宅増築	100	遺跡なし
鰐川館跡 (2010652)	鰐川	個人住宅建築	175.14	遺跡なし
友杉(2010653) *	友杉字北条田割	携帯基地局設置工事	4	遺跡なし
任海宮田 (2010654) *	任海	市道任海1号線改良工事	148	遺跡なし
下熊野(2010672) *	安養寺	富山特定環境保全公共下水道熊野処理分区 下水管布設工事	431.1	遺跡なし
二俣北(2010673)	二俣	個人住宅建築	281.59	遺跡なし
二俣(2010674)	上野	個人住宅建築	388.22	弥生土器
石田北(2010675)	石田	小規模保育園建築	958	中世土師器

遺跡名(遺跡No.)	所在地	調査原因	対象面積(m <sup>2</sup> )	調査結果
石田打宮 (2010676)	小杉	駐車場造成	326	遺跡なし
石田打宮 (2010676)	石田字打宮	個人住宅建築	332.66	遺跡なし
上野龜田 (2010679)	上野	個人住宅建築	407.96	遺跡なし
上野龜田 (2010679) *	上野	自由勾配側溝設置工事	36.8	遺跡なし
上野鍋田 (2010680)	上野	駐車場造成	3,438.63	弥生～古墳ピット、弥生～古墳土坑、弥生～古墳溝、戦国井戸／弥生～古墳弥生土器、古代須恵器、戦国漁戸・美濃、江戸越中漁戸、江戸近世陶磁器
懶王寺(2010683)	懶王寺	保育園園庭造成	1389	古代土坑／古代土師器、古代須恵器、古代不明木製品
若竹町(2010684)	懶王寺	駐車場造成	1,336	弥生(後)堅穴建物、弥生(後)溝、弥生(後)土坑、弥生(後)ピット／弥生(後～終)弥生土器、古代須恵器、古代土師器、江戸越中漁戸、江戸肥前系陶磁器
若竹町(2010684) *	懶王寺	駐車場造成	28	弥生土器、江戸磁器
上熊野(2010689)	上熊野	個人住宅建築	330.01	遺跡なし
布市北(2010692)	布市	店舗兼住宅建築	810.64	不明ピット／弥生土器、明治磁器
布市(2010693) *	布市	主要地方道富山大沢野 線県単独道路改良路肩 拡幅工事	300	遺跡なし
榎本郷Ⅱ (2010737)	八尾町榎本郷	個人住宅建築	498	遺跡なし
水谷(2010740)	八尾町水谷字 疊殿	個人住宅建築	320.06	遺跡なし
寺家・浜子 (2010743)	八尾町寺家	個人住宅建築	398	遺跡なし
黒田(2010744)	八尾町黒田	個人住宅建築	282.84	遺跡なし
黒田(2010744)	八尾町黒田字中 島田	個人住宅建築	252	江戸伊万里、江戸幕末漁戸
大杉Ⅱ(2010747)	八尾町大杉	個人住宅建築	500	鐵文磨製石斧、明治磁器
杉瀬(2010769)	林崎～杉瀬	一般県道東猪谷富山線 改良工事	700	遺跡なし
大井(2010773) *	大井	市道月岡大井線外2線 改良工事	41	遺跡なし
大井(2010773)	大井	個人住宅建築	564.02	遺跡なし
合田(2010777)	合田	店舗兼住宅建築	222.23	遺跡なし
岩木(2010883) *	岩木	岩木地区配水管布設替 工事	154	遺跡なし
元本宮寺跡 (2010918) *	原	原地区配水管布設工事	18	遺跡なし
布尻(2011001)	布尻	中山間地域総合整備 富山広域地区大沢野 工区布尻農用地改良 保全工事(仮称)	3,800	遺跡なし
布尻A(2011003) *	町長	町長地区配水管布設替 工事	81	遺跡なし
麻谷・片掛銀山 (2011020) *	片掛	市道麻谷片掛線沿面 改良工事	231.1	遺跡なし
片掛(2011022)	片掛地先	平成30年度片掛通信 局合外停電対策工事	35.66	遺跡なし
片掛(2011022) *	片掛け先	平成30年度片掛通信 局合外停電対策工事	2.6	遺跡なし
富山城下町遺跡 主要部(2011048) *	總曲輪3丁目	舞使差出箱設置工事	0.6	遺跡なし
計147件(うち 工事立会*40件)			91,329.08	

(3) 平成 30 年度捕遺 (3 月分)

遺跡名(遺跡番号)	所在地	調査原因	対象面積(m <sup>2</sup> )	調査結果
打出(2010002)	打出	個人住宅建築	430	不明流路／なし
今市(2010023)	八町	個人住宅建築	690.82	遺跡なし
水橋荒町・辻ヶ堂(2010056) *	水橋辻ヶ堂	市道水橋辻ヶ堂 3 号線改良工事	12	遺跡なし
與羽モグラ池(2010161) *	茶屋町字中ノ間	個人住宅建築	20	遺跡なし
與羽富田町(2010182)	北代字布口	車庫建築	49.14	遺跡なし
疊丘町(2010242)	高園町	個人住宅建築	182.94	遺跡なし
三七Ⅱ(2010259)	三上	個人住宅建築	326.75	遺跡なし
白鳥城跡(2010415) *	寺町地内	文化財説明看板設置工事	1.2	遺跡なし
富山城跡(2010442) *	本丸地内	文化財説明看板設置工事	1.2	遺跡なし
千石町(2010444)	千石町 5 丁目	個人住宅建築	397.64	江戸溝、江戸土坑／江戸越中瀬戸、江戸伊万里、江戸瀬戸美濃、江戸堺、江戸陶磁器
千石町(2010444)	千石町 5 丁目	個人住宅建築	597.48	江戸溝、江戸土坑／江戸越中瀬戸、江戸伊万里、江戸瀬戸美濃、江戸堺、江戸陶磁器
黒崎種田(2010550)	黒崎字種田割	駐車場造成	4,075.0	中世井戸、中世土坑、中世ピット／中世土師器、鎌倉珠洲、江戸越中瀬戸、江戸唐津、中世井戸側(板張)
山室東田(2010560)	山室	個人住宅建築	632	遺跡なし
小倉中稻Ⅱ(2010640)	婦中町小倉字 刈杉	店舗建築	369.61	遺跡なし
任海宮田(2010654) *	任海	市道任海 13 号線改良工事	41	古代土坑、不明土坑、不明ピット／古代土師器、中世珠洲、江戸越中瀬戸、不明陶器
上栄(2010696)	上栄	個人住宅建築	750	遺跡なし

平成 30 年度の統計(4~3 月)は 180 件 (うち工事立会 \*49 件)

## 2 遺跡地図管理

富山市内の史跡・埋蔵文化財包蔵地の総数は 1,049 ケ所、総面積は約 73.06 k m<sup>2</sup>です(令和 2 年 2 月末現在)。これは市域 1,241.77 k m<sup>2</sup>の約 5.88%にあたります。史跡・埋蔵文化財包蔵地は富山市遺跡地図に搭載され、埋蔵文化財センター窓口のほか、インターネットでも閲覧することができます。

### (1) 令和元年度の埋蔵文化財包蔵地の範囲変更等 (平成 31 年 3 月～令和 2 年 2 月)

No.	遺跡名(遺跡番号)	面積(m <sup>2</sup> )	変更内容
1	中富居遺跡(2010251)	70,539	試掘結果により範囲縮小

### (2) 遺跡地図のインターネット公開

遺跡地図は富山市ホームページで公開し、史跡・埋蔵文化財包蔵地の範囲、名称・所在地等の概要が閲覧できます。建築・土木工事、各種開発、不動産売買の手続き等の参考にしてください。また、遺跡地図はデータを随時更新していますので、その都度ご確認ください。

閲覧は、富山市ホームページのトップページから、「インフォマップとやま」→「まちづくり情報マップ」→「遺跡地図」の順に進んでください。閲覧にあたっては利用条件をご確認ください。

※URL <http://www2.wagmap.jp/toyama/top/>

### 3 史跡の保護・管理

#### (1) 北代縄文広場

##### ①管 理

###### A 管理運営委託等

###### a 管理運営

地元の長岡地区自治振興会に広場の管理運営を委託しました。自治振興会が配置した管理人と富山市北代縄文広場ボランティアの会の会員が常駐し、広場の管理や展示解説、縄文土器づくり（野焼きを含む）をはじめとした体験学習の手伝いなどを行いました。

###### b 環境整備

堅穴住居の燻し（防虫・湿気対策）、広場の草刈、樹木剪定などは公益社団法人富山市シルバー人材センターに委託しました。この他、機械除草、樹木剪定、トイレ手洗い水栓修繕、広場外灯修繕、止水栓設置等を行いました。

###### B 社会に学ぶ「14歳の挑戦」

広場管理運営補助（復元建物部分補修・敷地内の除草・清掃等）

速星中学校（3人） 令和元年7月1日～5日

###### C その他

「第14回越中富山ふるさとチャレンジスタンブラーー」（越中富山ふるさとチャレンジ実行委員会事務局）に協力しました。

平成31年4月26日～令和元年10月20日



社会に学ぶ「14歳の挑戦」

#### ②ミニ企画展

テーマ	期 間	主な展示品	来場者数	展示解説会
1 新収蔵品展 ～黒田コレクションから～	令和元年6月4日 ～令和2年1月26日	北代地区等表面採集：縄文土器、土鍤、土師器、須恵器、打製石斧、磨製石斧、石棒、石刀他	6,282人	令和元年6月8日 12人参加
2 奈良時代の北代遺跡	令和2年1月28日 ～7月12日	北代遺跡出土：土師器、須恵器、羽口、鉄滓他	455人 (2月末現在)	令和2年2月1日 12人参加

#### ③普及行事・講座

##### A 北代縄文考古楽講座

第1回講座 令和元年6月29日

「呉羽丘陵の縄文遺跡」

講師：堀内大介専門学芸員

第2回講座 令和元年7月20日

「縄文人と黒曜石」

講師：山本正敏氏（富山考古学会会長）

第3回講座 令和元年9月7日

「4,200年前の北代遺跡」

講師：久々忠義氏（富山考古学会副会長）



北代縄文考古楽講座（第2回）

**A 第4回講座** 令和元年 11月 16日  
「縄文時代の北陸の貝塚」  
講師：納屋内高史嘱託学芸員  
全4回 計 104人参加



夏休み！きただい子ども縄文教室

- B 夏休み！きただい子ども縄文教室**  
(悠久の森 2019 連携事業)  
令和元年 8月 2日 23人参加
- C 文化の秋の縄文土器づくり**  
第1回講座 令和元年 10月 5日  
串田新式土器（深鉢）の成形  
第2回講座 令和元年 10月 19日  
串田新式土器（深鉢）の施文・研磨  
第3回講座 令和元年 10月 30日  
串田新式土器（深鉢）の野焼き  
講師：近藤顕子主幹学芸員 4人参加



文化の秋の縄文土器づくり作品展 2019

- D 文化の秋の縄文土器づくり作品展 2019**  
令和元年 11月 6日～17日 北代縄文館展示室

#### ④長岡地区等行事

- A 長岡地区自治振興会**  
繩文朝市（地元野菜等の販売）  
令和元年 5月～7月の指定土曜日（全4回）

- B 北代三区町内会**  
令和元年度北代三区町内会納涼大会（世代間交流行事） 令和元年 8月 3日
- C 長岡地区ふるさとづくり推進協議会**  
繩文冬まつり（世代間交流行事） 令和2年 1月 18日

#### ⑤来場者数

年度	個人	団体	合計	土器づくり体験	縄文グッズづくり体験	縄文コースターづくり体験
平成 29	8,469人	769人	9,238人	129人	167人	94人
平成 30	8,622人	695人	9,317人	84人	189人	14人
令和元(令和2年2月末現在)	7,180人	677人	7,857人	302人	143人	24人

(参考) 平成 11年 4月～令和 2年 2月末の来場者数累計 192,647人

## (2) 安田城跡歴史の広場

### ①管 理

#### A 管理等

##### a 管 理

管理人1人が常駐し、資料館及び広場の管理や来場者への案内等を行いました。

##### b 環境整備

清掃業務及び広場の環境整備（芝刈・樹木剪定・除草・睡蓮間引き）は、公益社団法人富山市シルバーハウスセンター及び財團法人富山市婦人公園緑地管理公社に委託しました。この他、老朽化設備の修繕（駐車場北側外灯再設置、資料館空調修繕、屋外時計修繕、堀給水バルブ修繕、男子トイレ天井修繕、外灯タイマー取換修繕）を行いました。

#### B その他

「第14回越中富山ふるさとチャレンジスタンプラリー」（越中富山ふるさとチャレンジ実行委員会事務局）に協力しました。

平成31年4月26日～令和元年10月20日



外灯再設置状況



ミニ企画展 展示解説会

## ②ミニ企画展

テーマ	期 間	主な展示品	来場者数	展示解説会
1 戦国の城を握る～小出城と願海寺城～	令和元年12月3日～2年7月12日	小出城跡出土：武器（火薬筒の弾・長刀柄・腰刀）、木製品（木簡・漆器・櫛・折敷・鐵機部材・下駄・曲物等）、中世土師器・陶磁器・馬の骨・埴輪等 願海寺城跡出土：取瓶・被然罐・木製品（符掛駒・木簡・漆器・櫛・下駄・曲物等）、中世土師器・陶磁器等・埴輪等	2,366人 (2月末現在)	令和2年 1月29日 30人参加

### ③普及行事・講座

#### A 夏休み子ども歴史講座「秀吉と成政の戦いを見つめた城 安田城～学んだ歴史をレポートしよう～」

令和元年8月8日(木) 55人参加

講師：前田雄一郎教諭（雄川小学校）、小倉祐介教諭

（山室小学校）、松原玄尚教諭（水橋西部小学校）

指導補助ボランティア：角田睦美氏、杉森慶子氏

#### B 発掘速報展2019Part2関連 特別講演会「富山城周辺の近現代の変遷」

令和元年9月28日(土) 20人参加

講師：竹島慎二氏（富山近代史研究会会長）

#### C 歴史講座「新庄城の歴史とその性格」

令和元年10月19日(土) 25人参加

講師：高岡徹氏（とやま歴史的環境づくり研究会代表）



発掘速報展特別講演会



歴史講座

#### ④朝日地区等行事

##### A 第27回安田城月見の宴（安田城月見の宴 実行委員会）

令和元年 8月 24 日（土）

内容：武者行列、武者行列演技、剣詩舞、

YOSAKOI in 婦中祭、花火等



安田城月見の宴 武者行列

#### ⑤来場者数

年度	個人	団体	合計
平成 29	18,053 人	1,774 人	19,827 人
平成 30	19,701 人	2,032 人	21,733 人
令和元(令和 2 年 2 月末現在)	17,078 人	2,373 人	19,451 人

(参考) 平成 5 年度～令和 2 年 2 月末の累計来場者数 272,293 人

### （3）史跡王塚・千坊山遺跡群

#### ①維持・管理

##### A 倒木処理・樹木伐採

千坊山遺跡では、倒木の転落による事故を未然に防止するため、北東斜面上の市有地にある倒木 6 本相当の搬出・処理を行ったほか、史跡説明看板付近の傾いた樹木 1 本の伐採・処理を行いました。

##### B 除草管理

千坊山遺跡・六治古塚墳墓・向野塚墳墓・勅使塚古墳（市有地約 60,975 m<sup>2</sup>）の除草を、公益社団法人富山市シルバー人材センターへの業務委託により実施しました（6～11 月）。

千坊山遺跡内の古里小学校旧運動場（市有地約 6,300 m<sup>2</sup>）では、古里小学校の P T A の方々が当該地における親子活動の開催に合わせて、除草作業をされました（5 月・8 月）。

### （4）史跡等の巡視及び管理

#### ①文化財バトロール

富山県が委嘱した文化財保護指導委員による定期的な史跡、埋蔵文化財等の巡視。

北代遺跡、王塚・千坊山遺跡群、安田城跡、金草第一古窯跡、堀 I 遺跡、柄谷南遺跡、五百羅漢

#### ②除草・環境整備

公益社団法人富山市シルバー人材センターへの業務委託により、下記の場所での除草や環境整備を実施しました。

堀 I 遺跡（5・8・10 月）、友坂二重不整合（5・8 月）、押上遺跡（5 月）・栗山塚（5・8 月）、古沢塚山古墳（7 月）、境野新遺跡（7・9 月）

## 4 展示・普及

### (1) 発掘速報展

#### ①発掘速報展 2019 Part1

「古代のものづくりと暮らし」

会 場：富山市考古資料館

期 間：令和元年5月28日～7月17日

展示遺跡：北代遺跡、米田南田遺跡、友坂遺跡

主な展示品：[北代遺跡] 繩文土器、弥生土器、

古代土器、鉄滓、炉壁、羽口

[米田南田遺跡] 弥生土器、玉作り

遺物、古代土器、土錐、鉄滓

[友坂遺跡] 古代土器、中世土器、

井戸枠、近世土器

入館者数：448人

展示解説会：令和元年6月15日（野垣主査学芸員） 参加者8人



展示解説会

#### ②発掘速報展 2019 Part2

「発掘でみる近現代の富山城跡」

会 場：安田城跡資料館

期 間：令和元年7月23日～令和元年12月1日

展示遺跡：富山城跡、富山城下町遺跡

主な展示品：信楽焼朝顔形小便器、売薬行商鑑札、

荷札木簡、旧富山県会議事堂の基礎レ

ンガ、旧富山市民病院のガラス瓶・

食器類、輸入陶磁器

入館者数：6671人

特別講演会：竹島慎二氏（富山近代史研究会会長）

「富山城周辺の近現代の変遷」

令和元年9月28日 参加者20人

展示解説会：令和元年8月28日（堀内専門学芸員） 参加者6人



展示解説会

### (2) 兼務関係施設の企画展

#### ①富山市考古資料館（民俗民芸村所管 細辻主査学芸員兼務）

テーマ	期 間	主な展示品・関連行事	来館者数
企画展 「古代とやまのまじない」	令和元年7月20日 ～12月15日	豊田大塚・中吉原遺跡：人面墨書き土器・人形 米田大覚遺跡：斎串 花ノ木C遺跡：土師器・ 人形・斎串 水橋荒町・辻ヶ堂遺跡：斎串 砂子田I遺跡：舟形 射水市北高木遺跡：土師 器・人形・馬形 射水市南太閤山I遺跡：人面 墨書き土器・斎串 射水市赤井南遺跡：人面墨書き 土器 高岡市下佐野遺跡：人面墨書き土器・墨画 土器・馬形・斎串 高岡市出来田南遺跡：人面 墨書き土器・馬形・斎串 高岡市石名瀬A遺跡： 人面墨書き土器・人形・斎串 小矢部市埴生南遺 跡：人面墨書き土器	1739人
	令和元年8月3日	展示解説会（細辻主査学芸員）	4人
	令和元年10月5日	記念講演会「北陸と東国の人面墨書き土器を比べてみる」 荒井秀規氏（藤沢市郷土歴史課）	16人

### (3) 発掘調査現地説明会

#### ① 黒崎種田遺跡

令和元年10月5日(土)

参加者数140人



記者発表 (10/3)



現地説明会 (10/5午前の部)

### (4) 講 座

#### ① 富山市民大学（富山市民学習センター主催）

##### A 繩文時代の考古学

回	講 師	学習題	開催月日
1	中本八穂専門学芸員	旧石器から縄文へ	5月 17日
2	堀内大介専門学芸員	縄文時代前期の集落	6月 14日
3	納屋内高史嘱託学芸員	縄文時代の食生活	6月 28日
4	野垣好史主査学芸員	縄文時代の自然環境	7月 5日
5	近藤顕子所長代理	縄文時代中期の集落－開ヶ丘孤谷Ⅲ遺跡－	7月 19日
6	堀沢祐一所長	縄文時代の住居	9月 13日
7	近藤顕子所長代理	史跡北代遺跡の復元	9月 27日
8	堀沢祐一所長	【現地学習】史跡北代遺跡	10月 11日
9	鹿島昌也専門学芸員	縄文時代のいのり	10月 25日
10	細辻嘉門主査学芸員	縄文から弥生へ－縄文時代後・晩期の遺跡－	11月 8日

##### B 地土の歴史

2	堀沢祐一所長	古代越中国の仏教信仰	5月 23日
---	--------	------------	--------

##### C 地土史（大沢野プラネット）

6	中本八穂専門学芸員	考古学と大沢野	8月 22日
---	-----------	---------	--------

#### ② 市役所出前講座

##### 遺跡からみた富山の歴史

回	講 師	演 題	主催者／会場	参加者数	月 日
1	大野英子専門学芸員	現地学習 古里の遺跡	古里地区ふるさとづくり推進協議会／各願寺	30	6月 10日
2	近藤顕子所長代理	富山城の歴史について	新金代福寿会／新金代公民館	30	6月 28日
3	野垣好史主査学芸員	呉羽丘陵南部（杉谷・古沢）の遺跡	呉羽山観光協会／杉谷・呉羽山丘陵古墳群	20	7月 16日
4	野垣好史主査学芸員	呉羽丘陵南部（杉谷・古沢）の遺跡	（福）富山県社会福祉協議会／いきいき友の会／杉谷古墳群	16	10月 24日
5	堀内大介専門学芸員	新庄城跡と富山城跡	長江東台長寿会／樂遊クラブ／長江東台公民館	24	11月 19日
6	野垣好史主査学芸員	富山城の石垣	富山県石工技能士会／富山城址公園	17	11月 27日
7	大野英子専門学芸員	安田城跡と友坂遺跡	朝日自治振興会・社会福祉協議会・ふるさとづくり推進協議会／かんぽの宿富山	25	11月 28日
8	細辻嘉門主査学芸員	藤ノ木校下周辺の遺跡から	藤見町見寿会／藤見町公民館	19	12月 24日
9	鹿島昌也専門学芸員	黒崎種田遺跡の発掘調査成果	富山市環境保健衛生連合会南部ブロック／光陽公民館	6	1月 15日

③北代縄文考古楽講座（会場：北代縄文館（第1・3・4回）、長岡公民館（第2回））

回	講 師	演 題	参加者数	月 日
1	堀内大介専門学芸員	呉羽丘陵の縄文遺跡	26	6月 29日
2	山本正敏富山考古学会会長	縄文人と黒曜石	25	7月 20日
3	久々忠義富山考古学会副会長	4200 年前の北代遺跡	30	9月 7日
4	納屋内高史嘱託学芸員	縄文時代の北陸の貝塚	23	11月 16日

④その他講座

回	講 師	演 題	主催者／会場	月 日
1	鹿島昌也 専門学芸員	富山城・城下町遺跡を掘る －富山様が居た頃、その後－	富山県公文書館	10月 10日
2	野垣好史 主査学芸員	富山藩前田家墓所 長岡御廟	文化財に親しむ会／長岡御廟	10月 30日
3	鹿島昌也 専門学芸員	富山城・城下町を掘る－貿易陶磁器 から幻の東京五輪記念盃まで－	高瀬遺跡保存協会／南砺市高瀬交流センター	11月 2日

(5) その他

①社会に学ぶ 14 歳の挑戦

速星中学校 3名 令和元年 7月 1日～5日

指導ボランティア 小松専門学芸員

[体験内容] 市内遺跡出土品整理、安田城跡歴史  
の広場、北代縄文広場の維持管理等



社会に学ぶ 14 歳の挑戦

②マスコミ取材対応

- A 北日本新聞・富山新聞・北陸中日新聞「発掘速報展 2019 Part1 について」 細辻主査学芸員・  
野垣主査学芸員 令和元年 5月 27 日
- B 北日本新聞・富山新聞・毎日新聞「願海寺城跡発掘調査現地公開」 堀沢所長・堀内専門  
学芸員 令和元年 6月 7 日
- C 北日本新聞「きょうもにっこり」コーナー 泉田学芸員 令和元年 6月 18 日
- D とやまソフトセンター「発掘速報展 2019 Part1 について」 野垣主査学芸員 令和元年 6月  
26 日
- E 北日本新聞・富山新聞「発掘速報展 2019 Part2 について」 堀内専門学芸員 令和元年 7月  
22 日
- F 毎日新聞船橋支局「幻の東京五輪記念盃について」 鹿島専門学芸員 令和元年 8月 24 日
- G 富山シティエフエム「とやまお仕事探訪（11月 11～15日）」埋蔵文化財センターの業務や  
展示について紹介 堀内専門学芸員 令和元年 10月 29 日
- H 富山県いきいき長寿センター「越中とやまのお宝 第 52 回 売薬行商鑑札」『VITA』第 120  
号 堀内専門学芸員・宮田嘱託学芸員 令和 2 年 1月 8 日
- I 富山シティエフエム「越中むかしものがたり（2月 5～26日）」安田城跡資料館ミニ企画展  
「戦国の城を掘る～小出城と願海寺城～」の展示内容について紹介 大野専門学芸員 令和  
2 年 1月 24 日

## 5 刊行物

### (1) 発掘調査報告書

- No.99 順海寺城跡発掘調査報告書（2020.3）  
No.100 富山市内遺跡発掘調査概要 22（2020.3）

### (2) PR誌・展示図録等

- 『富山市の遺跡物語』No.21 富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報（2020.3）  
『北代縄文通信』第48号（2020.3）



発掘された日本列島展 2019  
(福岡県 大野城心のふるさと館)

## 6 活用

### (1) 出土品貸出

	貸出先	展示名	展示期間	資料名
1	江戸東京博物館 花巻市博物館 三内丸山遺跡センター 名古屋市博物館 大野城心のふるさと館	「発掘された日本列島 2019」	R1.6.1 ～R2.2.26	富山城下町遺跡出土の酒盃等 25点、写真等一式
2	富山市市民生活相談課	「富山市民感謝と誓いのつどい」資料展示	R1.8.1	富山城跡出土の富山大空襲関連遺物
3	富山市民俗資料館	特別展「民俗資料にみる富山 東？西？それとも？」	R1.9.7 ～12.1	金屋南遺跡出土の鉄鍋 1点
4	あわら市郷土歴史資料館	企画展「桑野遺跡と北陸の縄文装身具」	R1.9.14 ～12.1	小竹貝塚出土の玦状耳飾 74点、写真 2点
5	新潟市文化財センター	企画展「弥生時代後期の北越と北陸・長野との交流」	R1.10.23 ～R2.4.10	四方背戸割遺跡出土の弥生土器 3点

### (2) 写真等資料掲載

- ①打出遺跡焼失住居写真 1点 上越市教育委員会「富山県から見た釜蓋遺跡」のポスター等  
②富山城跡出土焼夷弾の写真・実測図 3点 たまや『この弾薬箱のさらにいくつもの片隅に』(令和元年 8月 15日刊行)  
③富山城下町遺跡出土の陶磁器写真 1点 四谷大塚出版『第 6 回合不合判定テスト』の教材として使用(令和元年 12月 8日実施)  
④杉谷 A 遺跡出土副葬品写真 1点 昭和堂『大学の富山ガイド』(令和 2年 3月刊行予定)  
⑤順海寺城跡発掘調査成果 雄山閣『季刊考古学』第148号(令和元年 7月 25日刊行)  
⑥安田城跡全体写真 1点 羽島市歴史民俗資料館にて来館者への解説時に使用  
⑦富山城跡出土壳聚糖行商籠札写真 2枚 社会福祉法人富山県社会福祉協議会『VITA』120号(令和 2年 3月 20日刊行)

### (3) 資料調査・見学等

- ①令和元年 5月 15日 新潟市文化財センター 渡邊朋和氏 宮町遺跡・四方背戸割遺跡・四方荒屋遺跡・北代遺跡・富山城跡・向野池遺跡・富崎千里古墳群出土の天王山式土器  
②令和元年 5月 21日 東洋陶磁学会 新宅輝久氏 富山城跡出土遺物  
③令和元年 6月 28日 (一財)大阪市文化財協会 小田木富慈美氏 金屋南遺跡鑄造関連遺物  
④令和元年 7月 5日 富山県埋蔵文化財センター 松井広信氏 富山城跡出土中世土器皿

- ⑤令和元年 9 月 17 日 (公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター 桐井理揮氏 打出遺跡・小竹貝塚・江代割遺跡出土弥生土器
- ⑥令和元年 11 月 25 日 金沢大学フィールド文化学部 田中小鞠氏 富山城下町遺跡出土土人形・土製品
- ⑦令和元年 12 月 19 日～12 月 27 日 上野章氏 向野池遺跡・開ヶ丘中遺跡・明神遺跡瓦塔
- ⑧令和元年 12 月 23 日～12 月 25 日 東京大学総合研究博物館 宮田佳樹氏 小竹貝塚出土繩文土器付着炭化物
- ⑨令和 2 年 1 月 20 日 岩手県文化振興事業団 阿部勝則氏 北代遺跡等三角とう形土製品

## 7 調査研究

### (1) 調査協力・共同研究

#### ①石川県金沢城調査研究所

- A 令和元年 7 月 19 日 第 1 回金沢城関連城郭等情報連絡会 「富山城跡における近世の瓦等について」の報告 野垣好史主査学芸員
- B 令和元年 11 月 28 日 第 2 回金沢城関連城郭等情報連絡会 会津若松市教育委員会 近藤真佐夫氏による「近世城郭における瓦について」の聴講 野垣好史主査学芸員

#### ②岐阜県飛驒市

- 令和 2 年 1 月 23 日 史跡江馬氏城館跡における出土遺物の指導 鹿島昌也専門学芸員・堀内大介専門学芸員・野垣好史主査学芸員

### (2) 論文・報告・紹介 富山市内の遺跡に関連するものを含む

#### ①関係職員等

- 小黒智久 2019.11 「論文展望 上越地域における後期・終末期古墳の再検討 新潟考古第 30 号」『季刊考古学』第 149 号 雄山閣
- 小黒智久 2020.2 「コシの横穴系埋葬施設と高志国」『横穴式石室の研究』 同成社
- 小黒智久 2020.3 「中越地域における終末期古墳の再検討」『新潟考古』第 31 号 新潟県考古学会
- 鹿島昌也 2019.3 「原始」「明治から平成の医療・福祉」『次代にのぞむ西田地方の歴史 西田地方郷土史』
- 鹿島昌也 2019.3 「富山城・城下町遺跡の発掘調査出土陶磁器の様相」『東洋陶磁』第 48 号 東洋陶磁学会
- 鹿島昌也 2019.6 「富山城下町遺跡」『発掘された日本列島 2019』文化庁編 共同通信社
- 鹿島昌也 2019.7 「富山県地方史研究の動向・考古学関係」『信濃』第 71 卷第 7 号 信濃考古学会
- 鹿島昌也 2020.3 「幻の東京五輪」記念陶磁器考」『富山市考古資料館紀要』第 39 号
- 鹿島昌也・新宅輝久 2020.3 「富山城下町遺跡出土の貿易陶磁器について(2)」『富山市の遺跡物語』No.21 富山市埋蔵文化財センター
- 鹿島昌也・宮田康之 2020.3 「富山市一番町出土の近代徳利瓶について」『富山市の遺跡物語』No.21 富山市埋蔵文化財センター
- 酒井英男・泉吉紀・名古屋岳秀・野垣好史・卜部厚志 2019.3 「噴砂の磁化による古地震の年代推定—御館山館跡と四方背戸割遺跡において—」『情報考古学』第 24 卷 1・2 号 日本情報考古学会
- 納屋内高史 2019.12 「出土資料から見た近世富山城下町の食文化」『関西近世考古学研究』26 関西近世考古学研究会
- 納屋内高史 2020.3 「小糸尾萩野遺跡等の表採資料について」『富山市の遺跡物語』No.21 富山市埋蔵文化財センター
- 野垣好史 2019.6 「廢城から明治中期の富山城」『存城・廢城（いわゆる廢城令）から明治中期における城郭—その軍事・保存・変遷—』 城郭談話会

- 野垣好史 2019.11「富山城跡（三ノ丸）」『木簡研究』第41号 富山市埋蔵文化財センター
- 野垣好史 2020.3「富山城跡 2008年度調査補遺一礎石の報告と礎石間隔の検討一」『富山市の遺跡物語』No.21 富山市埋蔵文化財センター
- 藤田富士夫 2019.3「土壌群構成と块飾の相関関係」『桑野遺跡』あわら市埋蔵文化財調査報告第3集 あわら市教育委員会
- 藤田富士夫 2019.5「相馬御風と高橋健自の考古交流」『日本考古学史研究』第7号 日本考古学史学会
- 藤田富士夫 2019.6「萬葉集「長門の島」の歌作背景を考える」『歴史・民族・考古学論叢』辻尾榮市氏古稀記念刊行会
- 藤田富士夫 2019.6「寺地遺跡と真駒遺跡の「日の入り」の観測」『野外調査研究』3号 野外調査研究会
- 藤田富士夫 2019.6「寺地遺跡の巨大木柱遺構とその性格」『人文社会科学研究所年報』No.17 敬和学園大学
- 藤田富士夫 2019.10「墓域と块飾から見た桑野遺跡の集団構成」『桑野遺跡から見た縄文世界』あわら市教育委員会
- 古川知明 2019.5『富山の石造物調査報告書III』 富山石文化研究所
- 古川知明 2020.1「富山・稻荷磐の復元」『論集 富山城研究』第3号 富山城研究会
- 古川知明 2020.1「富山藩主前田家墓所藩主墓の選地意識」『論集 富山城研究』第3号 富山城研究会
- 古川知明 2020.1「高岡市教恩寺石燈籠（火袋）の採石地推定と歴史的評価」『論集 富山城研究』第3号 富山城研究会
- 古川知明 2020.1「奥羽丘陵峠茶屋山越道の検討」『論集 富山城研究』第3号 富山城研究会
- 古川知明 2020.1「富山城関係古絵葉書集成」『論集 富山城研究』第3号 富山城研究会
- 古川知明・野垣好史・萩原大輔 2020.1「富山城・城下町間連文献目録（補遺）」『論集 富山城研究』第3号 富山城研究会
- 堀内大介 2020.3「大峰城跡の試掘調査成果」『富山市の遺跡物語』No.21 富山市埋蔵文化財センター
- 堀内大介 2020.3「中世富山城の北堀について」『富山市の遺跡物語』No.21 富山市埋蔵文化財センター
- 堀沢祐一 2019.3「神社・寺院」『次代にのぞむ西田地方の歴史 西田地方郷土史』西田地方校下自治振興会
- 堀沢祐一 2020.3「縄文時代中期堅穴建物の出入口について」『富山市の遺跡物語』No.21 富山市埋蔵文化財センター
- 町田賢一・納屋内高史 2019.3「北陸地方における縄文後晩期の動物遺存体」『大境』38号 富山考古学会

## ②市内遺跡を取り扱ったもの等

- 相羽重徳 2020.3「講演録 金銀山の島―新潟県佐渡島の鉱山遺跡を探るー」『富山市考古資料館紀要』第39号
- 池野正男 2019.3「越中の龜に伴う土製支脚の系譜」『大境』第38号 富山考古学会
- 木本秀樹 2019.3「古代のすがた」「中世のすがた」『次代にのぞむ西田地方の歴史・西田地方郷土史』西田地方校下自治振興会
- 新宅輝久 2019.3「越中国内の古代・中世官道を考える 2—海面上昇による交通への影響」『大境』第38号 富山考古学会
- 新宅輝久 2019.3「越中国内で出土した壺入陶磁器の出土傾向とその背景について」『東洋陶磁』第48号 東洋陶磁学会
- 瀬口眞司 2019.3「<講演録>土偶のヒミツー隠されたその正体を探るー」『富山市考古資料館紀要』第38号 富山市考古資料館
- 高岡徹 2019.3「富山藩初期における古城跡調査の実態」『富山市考古資料館紀要』第38号 富山市考古資料館
- 高岡徹 2020.3「富山県南砺市桑山の石切場とその生産・流通―付・中世桑山城と石黒氏関連城郭群―」

- 『富山市考古資料館紀要』第39号  
 高木好美 2019.3「越中産の陶磁器 越中瀬戸焼・小杉焼・越中丸山焼について」『東洋陶磁』第48号 東洋陶磁学会  
 高田 敏 2020.1「富山城に関する絵葉書について」『論集 富山城研究』第3号 富山城研究会  
 萩原大輔 2020.1「高岡築城に関する前田利長消息（『兼島家文書』）の紹介と考察』『論集 富山城研究』第3号 富山城研究会  
 花輪 宏 2019.3「縄文時代前期の風習について—富山県小竹貝塚出土資料を中心とした研究—」『大境』第38号 富山考古学会  
 町田賛一 2019.5「ヤマ弥生」『平成30年度埋蔵文化財年報』富山県文化振興財团埋蔵文化財調査課  
 水之江和同 2019.9「日本列島の块状耳飾」『考古学雑誌』第102巻第1号 日本考古学会

### (3) 講演・研究発表 富山市内の遺跡に関連するものを含む

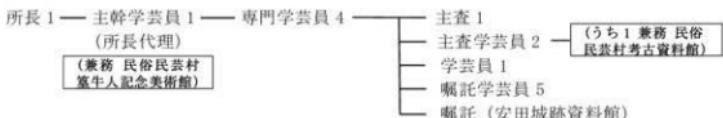
- 小黒智久「富山県の遺跡からみた釜蓋遺跡」釜蓋遺跡ガイダンス定期講座 令和2年3月14日  
 鹿島昌也「富山市百塚住吉D遺跡発掘調査の廻転遺構」第20回古代交通研究会大会 令和元年6月22日  
 鹿島昌也「富山城・城下町遺跡を掘る—富山様が居た頃、その後」平成31年度富山県公文書館企画展講演会 令和元年10月10日

## 8 研修等参加

- (1) 令和元年度文化財担当者専門研修「堆積・地質学基礎課程」 泉田学芸員 独立行政法人 国立文化財機構奈良文化財研究所 令和元年9月17日～20日
- (2) 令和元年度全国史跡整備市町村協議会北信越地区協議会役員会・総会・研修会 小松専門学芸員 富山県射水市 令和元年7月11日
- (3) 令和元年度全国史跡整備市町村協議会臨時大会 小松専門学芸員 東京都千代田区 令和元年11月20日
- (4) 令和元年埋蔵文化財発掘調査専門職員等研修会 鹿島専門学芸員・堀内専門学芸員・野垣主査学芸員・泉田学芸員 富山県埋蔵文化財センター 令和2年2月21日

## 9 組織・事業費

### (1) 組織



### (2) 事業費 (平成31/令和元年度当初)

総経費	139,527 千円
①埋蔵文化財調査事業費	32,345 千円
(内訳) 埋蔵文化財調査費	17,431 千円
普及事業費	265 千円
施設管理事務費	14,649 千円
②文化財保護事業費	16,092 千円
(内訳) 文化財保護事業費	860 千円
施設管理事務費	15,232 千円
③一般管理事務費	91,090 千円

## IV 研究報告

### 研究報告 1 小糸尾萩野遺跡等の表採資料について

納屋内 高史 (埋蔵文化財センター嘱託学芸員)

#### はじめに

今回報告する資料は、富山市小糸在住の宮西昌幸氏、および富山市春日在住の亀田正夫氏により表採された土器、石器類である。資料の多くは、宮西氏宅付近に所在する小糸尾萩野遺跡において表採されたものであるが、それ以外に岐阜県飛騨市所在の中野山越遺跡、信包上野遺跡において表採されたものが含まれる。資料の表採位置を図1に示す。

資料は総計12点に上り、石器類8点、縄文土器2点、珠洲焼2点である。

以下、資料の詳細を述べる。

#### 1 資料の詳細

1~3は、打製石斧である。全て小糸尾萩野遺跡で表採されたものである。短冊形、分銅形、撥形の各形態があり、3点とも原礫面を残す大型剥片を剥離により成型することにより、形を作り出している。また、1は、腹面上部から中央部に研磨痕がみられるほか、2は、背面側の剥離痕の摩滅が著しい。両者とも耕起具としての使用後に砥石や磨石等に転用された可能性がある。石材は、1が安山岩、2、3が凝灰岩とみられる。

4は、小糸尾萩野遺跡で表採された縁辺に剥離による調整の見られる大型剥片である。形状の作出が粗雑であり、何らかの未成品の可能性がある。背面に原礫面を残すが、原礫面には平滑な面が形成されており、磨石などを転用したと考えられる。石材は砂岩とみられる。

5~7は、定角式磨製石斧である。5、6は小糸尾萩野遺跡、7は信包上野遺跡で表採されたものである。6、7は、刃部形状が斜刃であり、縱斧と考えられるほか、摩滅、破損した刃を研ぎ直したと考えられる痕跡がみられる。また、5は、凹石・敲石に転用されている。石材は、すべて蛇紋岩類とみられるが、7は、石質がやや異なり、産地が異なる可能性がある。

8は、中野山越遺跡表採の石鏃である。凹基無茎鏃であり、石材は下呂石である。

9、10は、小糸尾萩野遺跡表採の縄文土器部片である。両者とも口縁部や主文様が残存しておらず、詳細な時期は不明である。9は無文、10は外面に複節RLRの縄文を施す。

11、12は小糸尾萩野遺跡表採の珠洲焼の甕である。12は、口縁部やタタキの形状から、吉

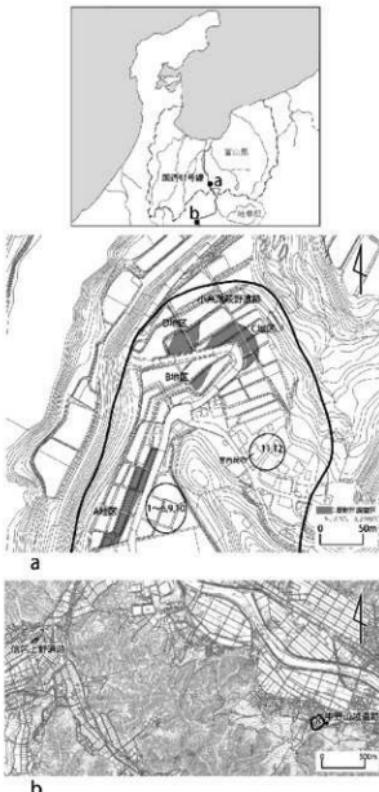


図1 報告資料表採位置

表1 遺物観察表

No.	注記	採取遺跡名	種別	部構	最大長 (厘米)	最大幅 (厘米)	重さ	石材	備考
1	小糸尾萩野	石斧	打製石斧	刃部	118.5	65	12.5	石英岩	石英岩
2	小糸尾萩野	石斧	打製石斧	刃部	115.0	65	12.5	石英岩	石英岩
3	小糸尾萩野	石斧	打製石斧	刃部	127.5	94	34.45	399.2	石英岩
4	小糸尾萩野	石斧	磨製石斧	刃部	87	40.5	15.6	石英岩	石英岩
5	小糸尾萩野	石斧	打製石斧	刃部	90	60	12.5	石英岩	石英岩
6	小糸尾萩野	石斧	打製石斧	刃部	90	44.5	12.5	146.0	石英岩
7	岡南町古川原 真空	信光上野遺跡	縄文土器	壺形	106.5	51.2	23.5	241.3	石英岩
8	中野	中野上野遺跡	石器	石器	29.3	17.2	9.5	1.8	下灰石
9	小糸尾萩野	縄文土器	壺形						無文土器 真 2.5V-31C-641真+2.5V-11黒海(鉢)分1 真 2.5V-25灰 真+2.5V-1 黑海(鉢)分1
10	小糸尾萩野	縄文土器	壺形						外周削り縄文土器 真 10V-97-1-25V-25灰 壁 10V-98-4-25灰
11	小糸尾萩野	縄文土器	壺形						外周削り平行歩牛 真 10V-98-2-25V-25灰 壁 NA-91真 壁 NO-91灰
12	富山市小糸 宮	小糸尾萩野	縄文土器	壺形			46.2		外周削り平行歩牛 真 10V-98-2-25V-25灰 壁 SV-18 真 SV-18

岡編年IV2期、14世紀前半のものと考えられる。11は、口縁部が残存しておらず詳細な時期は不明であるが、タタキの形状から吉岡編年IV～V期、13世紀末～15世紀前半のもの可能性がある。

## 2 おわりにかえて

今回報告した資料は、打製石斧、磨製石斧を主体とし、石鏃や大型剝片、縄文土器が含まれるほか、中世の珠洲焼も含まれる。石器類は形状から見てすべて、縄文時代のものと考えられる。

ここでは資料の大半を占める小糸尾萩野遺跡表採資料について、若干の考察を行いたい。

小糸尾萩野遺跡は、2013～2014年にかけて富山県文化振興財団（以下、県財団）により発掘調査が行われており、縄文時代中期前葉～中葉の集落跡と近世の道路遺構が検出されている。今回報告した資料が表採された地点は、現小糸集落の宮西氏宅周辺と現小糸集落の丘陵を挟んで西側に所在する水田で、県財団調査におけるA地区の東側およびB地区の南側に当たる。

今回報告した資料の傾向を県財団調査における遺物、遺構の傾向と比較してみると、報告した資料のうち、縄文時代の遺物は全て現集落西側の水田から見つかっている。また、組成は磨製石斧、打製石斧を中心とし、通常遺跡で見つかることが多い土器は僅か2点のみである。県財団の報告によれば、調査全体では、縄文時代中期前葉～中葉を中心とする土器、石器類、遺構が多量に発見されているものの、C、D地区が中心であり、資料表採地に隣接するA、B地区については、A地区では住居跡1棟と土坑数基、B地区では風倒木痕が見つかっているのみで、現小糸集落付近の縄文時代の生活痕跡はあまり顕著でない。今回報告した資料の表採地点の傾向は、現小糸集落周辺が県財団B地区同様、縄文時代には生活域としてあまり用いられていないことを示唆しているのかもしれない。

また、今回報告した資料には、珠洲焼の甕が見られたが、これらの遺物は宮西氏宅周辺で表採されたものである。県財団による調査では、珠洲焼を含む中世期の遺物の出土は近世の道路遺構が検出されているA地区のみで報告されており、それ以外の地区では報告されていない。このことは、縄文時代には生活域としてあまり用いられていなかった現小糸集落付近が、中世期には生活域として用いっていたことを示唆するといえるだろう。

謝辞：本稿を成すにあたり、以下の方に御教示、御協力いただきました。末筆ながら御礼申しあげます。  
宮西昌幸氏、中川伸二氏、亀田正夫氏、鹿島昌也氏

## 文献

- 田中道子他 2017『小糸尾萩野遺跡発掘調査報告 猪谷榆原道路建設に伴う埋蔵文化財発掘報告1』富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告73 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所, 184pp.  
飛驒市教育委員会編 2018『飛驒市遺跡地図』飛驒市文化財調査報告書12 飛驒市教育委員会, 62pp.  
吉岡康暢 1994『中世須恵器の研究』吉川弘文館, 1016pp.

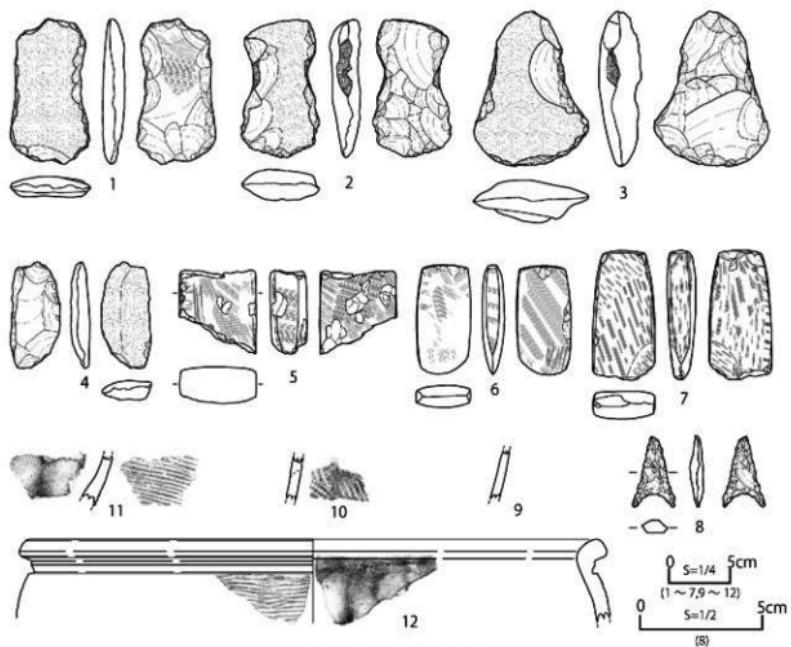


図2 表探資料実測図

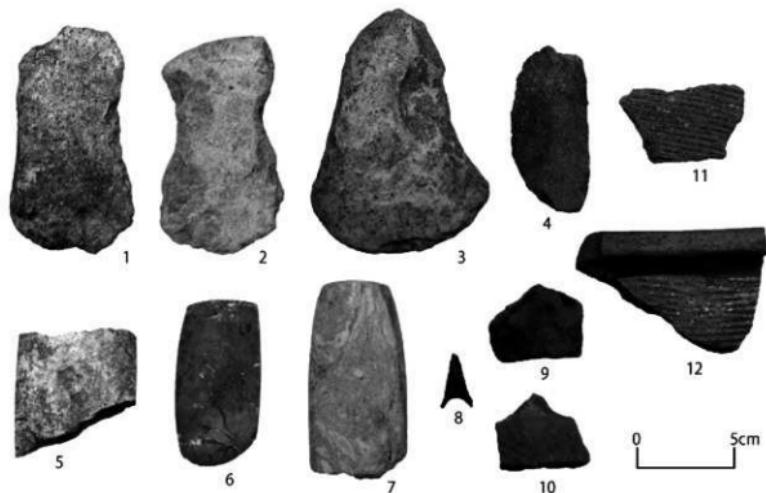


写真 表探資料写真

### はじめに

縄文時代の竪穴建物の出入口について検討する際には、これまでの研究成果を踏まえると竪穴建物内の埋甕の位置や建物の主軸が重要な視点となってくる。

竪穴建物内の埋甕については、宮坂英式氏<sup>(注1)</sup>が長野県茅野市尖石遺跡と与助尾根遺跡の発掘調査報告書で「蓋石の有無はあっても、その位置はいずれも南側の東西両主柱穴の中間よりやや外側に向った同一地点であった。この埋甕が、貯蔵目的であったならば、出入の激しい南側よりむしろ他の位置が選定せられるべき筈である。然るに、特にこの地点が等しく選定せられたからには、そこには何らかの強力な理由が存在していたからに違いない。」と考察され、桐原健氏<sup>(注2)</sup>は、この宮坂氏の提言を踏まえ「埋甕についての縄文時代竪穴住居の出入口部に土器を埋設させた施設という概念が成立を見た。」としている。

竪穴建物の主軸の重要性については、浅川滋男氏<sup>(注3)</sup>が「縄文時代の竪穴住居の場合、主軸上の入口と炉の周辺を三方からかこむ回字形の着座領域が形成されていた可能性が高い。そして、回字形領域が存在したならば、そこに炉を中心として、空間を分節する縦横二つの軸を想定できる。そのひとつは、「主軸」にはかならない、入口と炉、そしてしばしば祭壇や立石などの特殊構造がこの主軸上に配される。」と指摘しており、竪穴建物の出入口を想定する場合、建物の主軸がポイントになると考えられる。

このような点を踏まえながら、縄文時代中期の竪穴建物の出入口について検討したい。

### 1 富山県の事例

県内の事例としては、竪穴建物の主軸と主柱穴の配列から検討する東黒牧上野遺跡(富山市)と埋甕の関わりから報告されている直坂遺跡(富山市)の2つの遺跡を取り上げたい。

#### (1) 富山県富山市東黒牧上野遺跡(A 地区)

本遺跡は縄文時代中期中葉を主体とした集落遺跡であり、竪穴建物 29 棟が確認されている。そのうち 15 棟の発掘調査が行われ、残り 14 棟は現地保存されている。また、集落構造は、竪穴建物が広場を取り囲むように配置されている環状集落構造(馬蹄形かも)である。

前章で示した出入口を想定する条件のうち、本遺跡では埋甕は検出されていないため、建物の主軸、主柱穴の柱配列などを考慮して、本遺跡の竪穴建物の出入口について検討したい。確認されている 15 棟のうち、建物の平面形態や主柱穴が不明瞭な竪穴建物 4 棟(SI09, 13~15)は検討の対象外とする。

竪穴建物の平面形態は SI01 が長円形であるのを除き、ほとんどが隅丸方形を基調としている。隅丸方形の場合、主柱穴は 5 本で、主柱穴を線で結ぶとホームベース状の形になり、本遺跡での竪穴建物を建てる際の基準が想定される。

まずは、SI01 から検討する(図 1)。平面形態は長円形で、規模は長軸 8.2m、短軸 6.4m で、建物規模は約 45 m<sup>2</sup>である。地山から約 60 cm 堀り込んでいる。

主柱穴は 10 本で、おおよそ壁際に設置され、P1—炉—P6 を結んだ線が主軸と考えられる。主軸上に出入口が配置されるすれば、このライン上になるが、P1、P6 ともに壁際に接しており、出入口を構

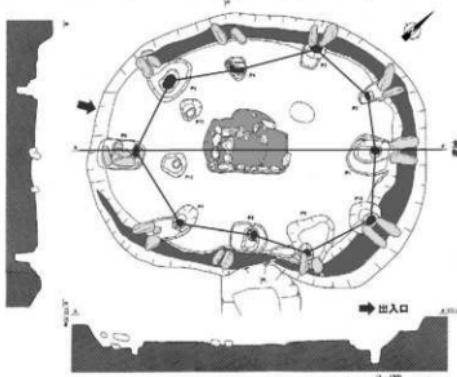


図 1 SI01 遺構平面図 (1:120)

築することは難しいと考えられる。

また、P5とP6の間を除いた壁際に幅20~60cm、床面からの高さが10~20cmのテラスがあり、このテラスが作られない部分が主軸付近にあたるため、ここを出入口と想定したい。このように想定すると、P11とP12は出入口施設に関係するピットと考えられ、梯子のような建物の内外を出入するための施設を設置するためのピットとしたい。SI01の出入口は、広場とは逆方向で、堅穴建物の南西側に設置される。

次に、SI02~07、10、11について検討する。これら堅穴建物の平面形態は、ほぼ隅丸方形で(SI10は円形)、長軸は3~4.5mに収まる。建物規模は9~16m<sup>2</sup>である。

主柱穴は5本で、それらを結ぶラインはホームベース状で、これらの建物の主軸は、炉と三角形になる主柱穴の頂点と結んだラインになる(図2)。この三角形の頂点にあたる主柱穴は、ほぼ堅穴に配置されており、その主柱穴付近には出入口を想定しにくいと考えられる。また、SI03と04では主柱穴の西側に、SI05では主柱穴の東側に段状の平坦面が確認されていることも考慮するとこれらの主柱穴の反対側に出入口を想定したい。ホームベース状に配置される主柱穴のマウンド側に出入口が配置されると考えられる。

このように想定すると、SI02、07、10、11では北西側に、SI03と04ではほぼ北側に、SI05では西側に、SI06では南西側に出入口が作られる。これらは、SI01と同様に広場とは逆方向に出入口を設置している。ちなみに、出入口を下座に想定すると、平坦面は建物の奥側(上座)に設置されているため、祭壇的なものと考えている。

最後に、主柱穴が4本と考えられるSI08について検証したい。建物の北東側はSI14と切り合っており、建物の平面形は不明瞭であるが、おそらく一辺3m程度の隅丸方形と考えられ、建物規模は推定で約9m<sup>2</sup>である。やや小規模であるが、本遺跡では一般的な規模になる。主柱穴の4本は長方形に配置され、炉の長軸方向を考慮すると出入口は、南西側か北東側に想定できる。この建物以外の建物の出入口が広場と逆方向を意識しているとすれば、南西側を出入口と考えたい。

前述したように、本遺跡では広場を囲むように堅穴建物が配置されており、発掘調査された堅穴建物を概観すると、広場に対して、その逆方向に出入口を設置していると考えられる。

また、建物の配置を見ると、SI01と未掘保存遺構の間に約5m、SI05と08の間には約8mの遺構が存在しない空白地帯があり、この部分を集落の出入口と想定したい(図3・4)。本遺跡は標高約176~178mの丘陵上に立地してい



図2 SI04 遺構平面図 (1:120)

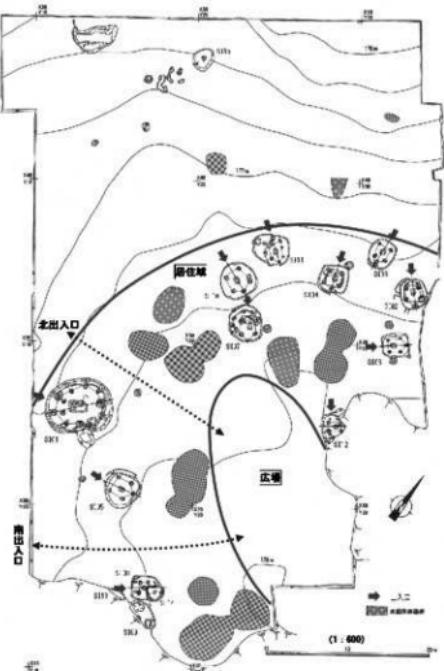


図3 東黒牧上野遺跡遺構等配置図 (1:60)

る。北側の出入口は西方向に向いており、その先には丘陵を上り下りする道につながると考えられる。丘陵の眼下には熊野川が流れおり、水の取水場への移動が推定できる。なお、この北側の出入口には、現在確認されている中で最大規模の竪穴建物SI01があり、本集落のシンボル的な建物と想定される。

次に、南側の出入口は南西方向に向いており、本遺跡の南西側に点在する縄文時代の集落遺跡である東黒牧上野B遺跡や東黒牧上野G遺跡などと関わりのある出入口と考えられる。

最後に竪穴建物の想定出入口から、建物間の道、集落内の道に触れておきたい。本遺跡の竪穴建物は、標高 177.25m から 177.75m の間に配置されており、竪穴建物の出入口付近に集落内の道を想定すると、SI01～04、07、10、11 では、標高 177.25m 付近に集落の外側を巡るような道が設置されていると考えられる。また、SI05、08 は南の出入口から枝道のようなルートが想定でき、標高は約 177.6m 付近にあたる。

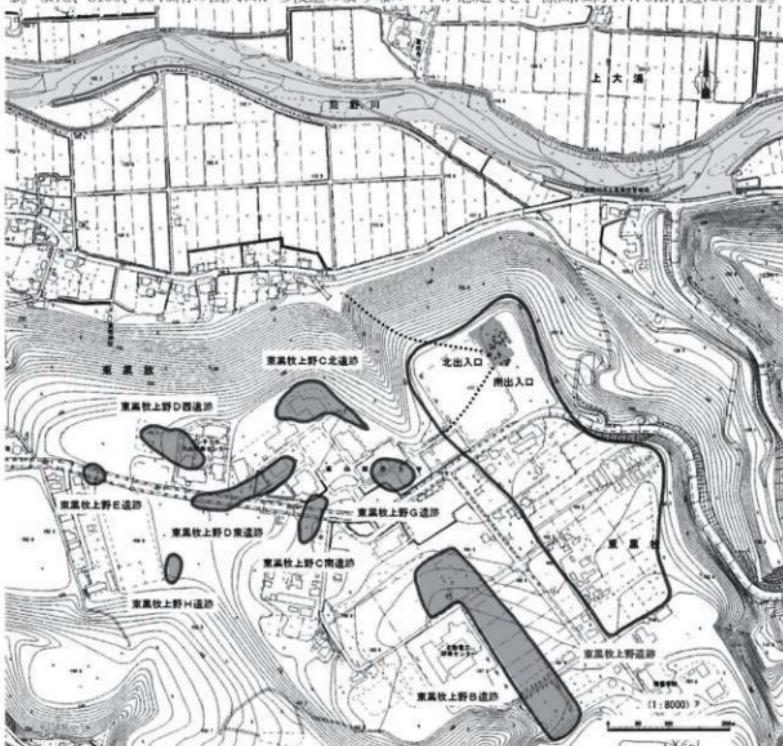


図4 東黒牧上野遺跡周辺の縄文遺跡と道 (1:8000)

## (2) 富山県富山市直坂遺跡

本遺跡では縄文時代中期後葉の竪穴建物が 7 棟検出されている。このうち 6 棟が調査され、1 棟は調査せずに保存されている。概要によると、6 棟は同時共存ではなく、切り合い関係もあることから、時期差があるとされている。住居の平面形態から、かまぼこ形で直辺がやや弧状に張り出し、プランが円形に近い形の竪穴建物(SI02、SI04、SI06)と方形で辺がやや弧状に張り出し、角の円みが強い竪穴建物(SI01)から、かまぼこ形で直辺が直線的でプランが半円に近い形の竪穴建物(SI05)に変化し、方形で角の円みが弱い竪穴建物(SI03)になると推定されている。

それでは、SI02、04、06 から検討する。これら竪穴建物はすべて屋内に周溝を持っている。また、SI04

と SI06 は幅約 40~60 cm のテラス状の高まりが作られる。

SI02 は、主柱穴が 4 本確認されているが、5 本程度と想定されており、主柱穴を結んだラインは、ホームベース状になると考えられる。また、建物の主軸上には石蓋を被せた埋甕が設置されており、その部分に出入り口が想定できる。堅穴建物の南西側にあたる。

SI04、06 からは埋甕は確認されていないが、主柱穴の配列や建物の主軸を考慮すると、ともに建物の南西側に出入り口を想定できる。このように、SI02、04、06 の出入り口は同じ方角に設置されることになる。

次に SI01 であるが、主柱穴は 4 本で、それらを結んだラインはほぼ正方形になる。また、周溝が作られるが、それが途切れる建物の主軸に埋甕が設置される。概報でも報告されているように、その部分に出入り口が想定され、建物の北西側にあたる。SI02、04、06 とは方向が違う。

次に、SI05 を検討する。本建物は SI06 と切り合い関係にあり、SI06 より新しい建物である。主柱穴は 8 本確認されており、図 6 のように配置される。また、建物内の周囲を巡るようにテラス状の高まりがあり、南西角には存在しないようである。このため、概報ではこの部分に出入り口を想定している。

最後に、SI03(図 5)であるが、SI01 と同様に平面形は方形を基調としており、建物内に周溝が巡る。建物の主軸では、その周溝が途切れたり、埋甕が設置され、概報にもある通り、その部分に出入り口が想定できる。建物の南西側にあたる。

このように、SI02 から SI06 の出入り口は、建物の南西側が西側と考えられ、同時共存ではないにしても、規則性が見られ、その部分に集落内の道が想定できる。さらに建築時期は同時ではないにしても、後世の堅穴建物も前代の建物の出入り口、つまり、集落内の道を意識して建てられていると考えられる。

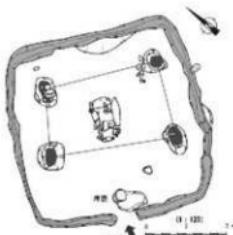


図 5 SI03 遺構平面図 (1:120)

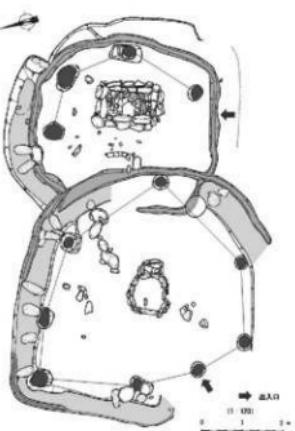


図 6 SI05(下)、06(上) 遺構平面図  
(1:120)

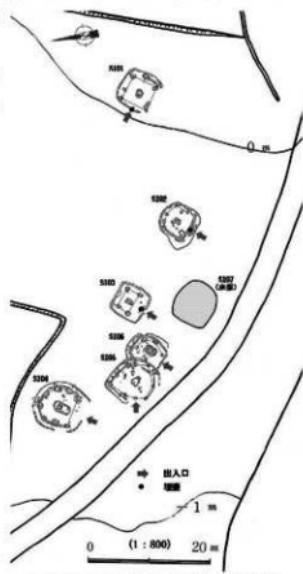


図 7 直坂遺跡遺構等配置図 (1:800)

## 2 県外の事例

次に、県外の事例については、大熊仲町遺跡（神奈川県横浜市）、塚原遺跡（岐阜県関市）の 2 遺跡について触れておきたい。前者については、報告書等で詳細に検討されているため簡単にまとめておく。

### (1) 神奈川県横浜市大熊仲町遺跡

本遺跡は、縄文時代早期、中期の集落遺跡である。主体となる時代は縄文時代中期であり、堅穴建物は総数 178 棟（一部、時期が違う建て替え建物含む）で、勝坂式期（56 棟）、加曾利 E I 式期（31 棟）、加曾利 E II 式期（39 棟）、加曾利 E III・IV 式期（25 棟）に大きく分けることができる。ちなみに中期に属するが詳細不明の 2 棟と野島式期が 5 棟ある。このうち、検出された堅穴建物の棟数の多い「勝坂式期」と「加曾利 E

II式期」の時期について触れておく。

まずは、勝坂式期(図8)では、堅穴建物(56棟)、掘立柱建物(8棟)、集石が確認されている。堅穴建物等は、外周130m、内周70m、幅30~50mの環状の居住域を形成しており、その内側には広場が作られる。堅穴建物は、北群、西群、南群の3群に分かれ、掘立柱建物は建物群外に3棟、群内に5棟存在する。

堅穴建物は、A類～D類の4類に区分されており、A類が34棟、B類が5棟、C類が9棟、D類が8棟になる。また本時期の堅穴建物は、第1段階から第3段階まで、時期区分がなされており、A類は第1、2段階に存続し、B類は第2段階、C類は第3段階の特徴的な堅穴建物である。

本時期の堅穴建物の出入口については、出入口の指標の一つとしたい「埋甕」が出現する以前であり、報告書では、「出入口施設が主柱穴間にある。小ピットを伴う楕円形の浅い掘り込みである。」と指摘されている。また、掘り込みを持たない建物でも、主柱穴が5本の場合「出入口側に頂点を向ける逆五角形に配されている。」と記載されている。さらに、発掘調査概報によると「出入口に伴う施設と考えられるピットが、多くの住居址から検出されたことである。このピットは、主軸線上の炉と反対側の壁に寄った位置にあって、楕円形を呈する浅い落ち込みの中に、通常2~4本の浅く細いピットが掘り込まれているものがある。堅穴住居の場合、出入りに梯子状のものを使用するとみられるが、これを下方を固定するためのピットと考え。(中略)しかし、炉とこのピットを結ぶ線が住居址の中軸線であり、これを軸にして住居址

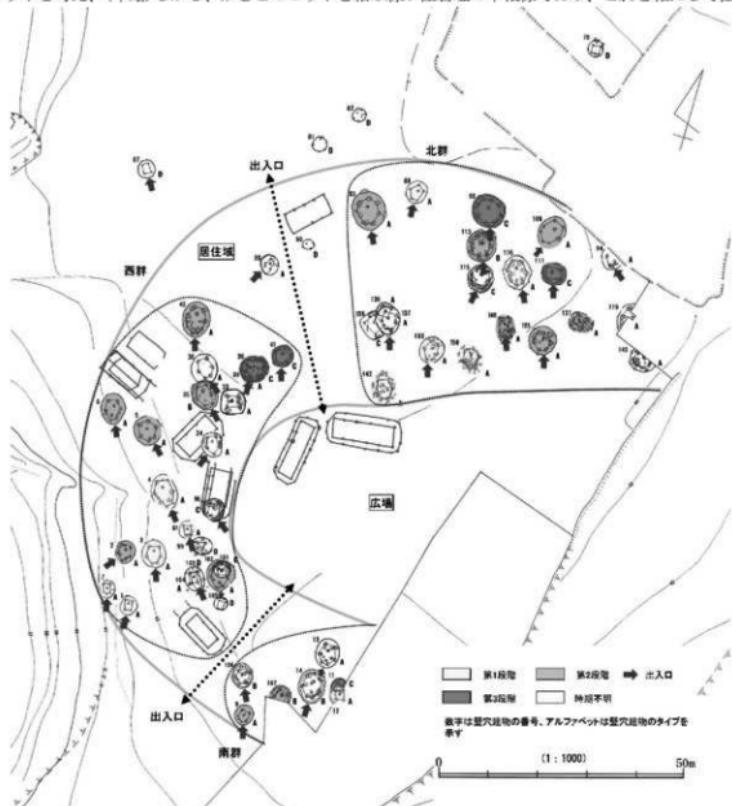


図8 大熊仲町遺跡(勝坂式期)造構等配置図(1:1000)

が左右対称になることや、主柱穴の配置とこのピットの位置とが密接な関連性を持っていることがうかがえることなどから、出入口の施設との判断を下したものである。」としている。

このように、堅穴建物の主軸と主柱穴の配列、炉の位置から出入口を想定している。炉の位置はほとんどが建物の中心よりもややずれて設置されており、建物の長軸のほぼ中央で区分けした場合、どちらかの空間に配置されることになり、その空間を建物の奥の空間と想定している。このため、反対側の空間に出入り口を想定している。また、出入口施設として、主に主柱穴間に、楕円形(長軸 50~80 cm、短軸 40~60 cm)や円形(径 30~40 cm)の落ち込みがあり、深さは 5~35 cm で、中には小ピットを伴う場合もある。

なお、建物の主柱穴が 6 本、4 本の偶数のものが多く建てられており、主軸に対してほぼ左右対称に配置されることから、かなり規則的に主柱穴を設置していることがわかる。このため主軸上のどちら側かの主柱穴間に出入り口を設定しやすくなると考えられる。7 本もしくは 5 本の場合は、基本的に出入口と反対側の壁際の主軸上に飛び出すように主柱穴が配置されることになり、7 本の堅穴建物は規模が大きくなる。

上記のことを考慮すると堅穴建物の出入口は、主に南もしくは南東方向に向いていると考えられており、「規則性がみられる。極めて強い齊一性を持っている。」と指摘されている。

ここで、本時期の集落の出入口について触れておく。堅穴建物は前述したように 3 群に分かれ、北群と西群では最小で約 15m 離れており、数棟建物はあるものの、若干の空白地帯がある。また、西群と南群の間も掘立柱建物が建つが、約 10m 間が空くことになる。ここに 2か所の集落の出入口が想定でき、両出入口ともに、掘立柱建物が存在し、集落のシンボル的な建物と考えられる。

次に、加曾利 E II 期について検討したい。本時期では、堅穴建物、集石、貯蔵穴、墓塚、単独埋甕などが確認されており、広場には墓塚群がつくられ、それを囲むように堅穴建物が配置されている(図 9)。堅穴建物が配置される居住城は、外周 100m、内周 40m 内に收まり、居住城の幅は 35m になる。中央部の墓塚群は、90 基以上の墓塚が群を成しており、この時期の特徴である。

本時期の堅穴建物は 39 棟である。H 類～K 類の 4 類に区分されており、H 類は 4 棟、I 類は 8 棟、J 類は 5 棟、K 類は 3 棟、タイプ不明が 19 棟になる。この時期の堅穴建物は、第 1 段階(9 棟)から第 2 段階(30 棟)まで、時期区分がなされており、H 類は第 1 段階のみであるが、I、J、K 類は第 1 段階、第 2 段階とともに存続している。

本時期の建物の出入口については、主に建物内に設置された埋甕の位置に出入り口が想定されている。埋甕は検出された 39 棟のうち 27 棟(埋甕の総数は、建て替えを含めると 36 基である。)から確認されており、埋甕はほぼ堅穴建物の主軸上か、やや離れて設置されている。また、炉については、埋甕の位置を出入口とすると、ほとんどの建物が奥側に設置されている。本時期の埋甕については「出入口部の壁や壁溝を住居の外側に向けて若干張り出させ、その部分の壁溝上部に埋甕を設けるものが出現する。そして、埋甕の両側には壁溝の底面よりも深いピットが掘り込まれるようになる」と指摘されている。

このように埋甕の設置位置を考慮すると、本時期の堅穴建物の出入口は南東側、南西側が多く、北西側に出入り口を持つ建物もある。本時期の集落の出入口についても触れておく。堅穴建物は北群、西群、南群の 3 群に分かれ、北群から東に離れて堅穴建物 160 がある。これら群の間には約 10~15m の空白地帯があり、その 3 か所を集落の出入口と想定したい。ちなみに、堅穴建物 160 は長軸 9.8m と本時期では最大規模の建物で、出入口に存在し「集会場的な施設」との指摘もなされ、シンボル的な建物と考えられる。

## (2) 岐阜県関市塙原遺跡(図 10)

本遺跡は縄文時代中期前半～後半の集落遺跡である。堅穴建物(17 棟)、掘立柱建物(19 棟)、集石土坑(7 基)、土坑(5 基)、立石、地床炉、組石、遺物集中穴(10 基)が検出されている。

II 期(中期後半の前葉)の堅穴建物は SI04、07、08、12 の 4 棟が検出されている。平面形態はすべて方形を基調としており、主柱穴は 4 本で、ほぼ正方形に配される場合と長方形に配される場合がある。

また、炉の設置場所は堅穴建物の中心ではなく、どちらか側に寄って設置されている。報告書では出入口について触れていないが、堅穴建物の主軸と炉の位置を考慮し、炉がある空間の反対側に出入り口を想定すると、SI08 は不明であるが、他の 3 棟はほぼ南側か南西側と考えられ、ある程度規則性を持っていると考えられる。

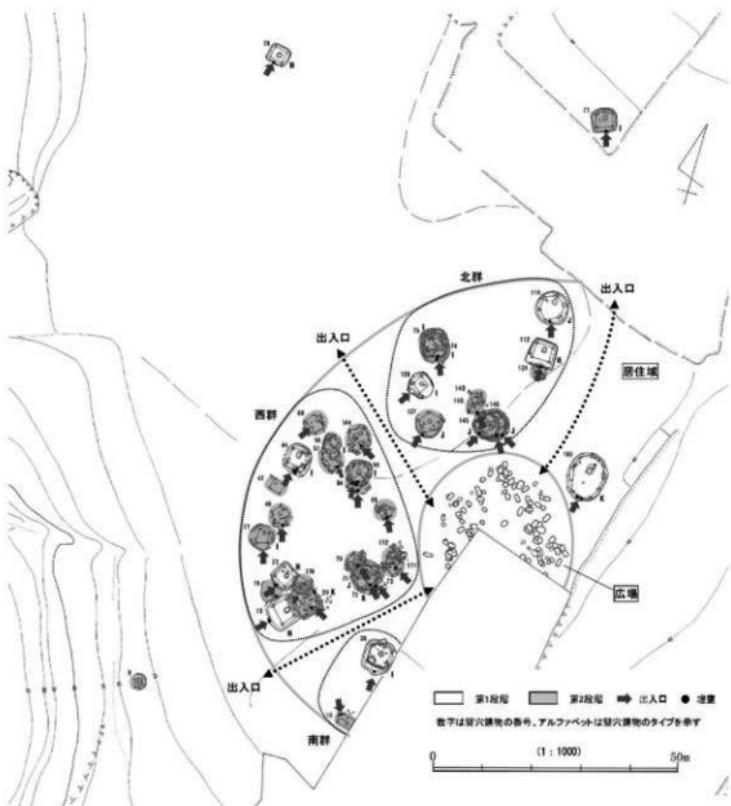


図9 大熊仲町遺跡(加曾利EⅡ式期)遺構等配置図 (1:1000)

Ⅲ期(中期後半の後葉)の堅穴建物はSI01～03、05、06、09～11、13～17の13棟が該当する。本時期の建物は堅穴建物と掘立柱建物(19棟)から集落が構成される。集落構造は、中央に広場(ただし、堅穴建物が1棟ある。)があり、広場を取り囲むように、掘立柱建物が構築されている(一部、堅穴建物含む。)。さらにその外側に堅穴建物が建築されている。

本時期の堅穴建物の平面形態もII期と同様に方形を基調としている。主柱穴はほとんどの建物が4本で、5本の建物が2棟ある。建物規模が確定している建物については、すべて周溝が検出されており、建物の企画性がみとめられる。炉の形態はすべて石組炉で、炉の位置もSI09以外は、II期同様に建物の中心よりもどちらか側によって設置されている。

出入口に関しては、報告書によると SI02 の硬化した床面、SI03 と SI13 の壁付近にあるビットが出入口にかかる施設と指摘されている。このことから、SI02、03、13 はすべて南東側である。また、二期と同様に竪穴建物の主軸、炉の位置から想定すると、SI01 はほぼ東側、SI05、15、17 はほぼ南側、SI11、16 は南西側と考えられる。SI09 については、建物の主軸と炉の位置、主柱穴の配列を考慮すると北西側が想定されるが、周辺の建物との関わりや SI03 と類似している建物であることから、南側か南東側に出入口を想定したい。

本遺跡の堅穴建物は、段丘に沿って帶状に分布し、北群と南群に区分することができる。両群の間には、

B12 から I17 を経由して P27 に至る等高線を境に分かれしており、狭いところで約 17m 離れることとなる。この両群が分かれる等高線付近を集落の出入口と推定したい。

次に、集落内の道については、北群の SI02、03、09、13 では、建物の出入口が南側や南東側と想定でき、それらをつなぐ道が考えられる。また、南群の SI11、15、17 では出入口が南側や南西側になり、北群と同様のことが想定される。両群とも、集落内の道はほぼ等高線に沿ってつくられると考えられる。

### 3まとめ

このように、縄文時代中期の堅穴建物の出入口位置について、建物内の埋甕と建物の主軸の両視点から検討した。

出入口の方角は、東黒牧上野遺跡や塚原遺跡、加曾利 E II 式期の大熊仲町遺跡では、4 方向が確認された。一見、方角を揃えないように見えるが、出入口の方向をつなぐと集落内の道の存在が想定され、その道を意識して堅穴建物を建てていると考えられる。また、直坂遺跡や勝坂式期の大熊仲町遺跡では、堅穴建物の時期差がありながら、出入口の方角が 2 方向から 3 方向である程度揃えているのは、その方角に集落内の道が想定され、前述した遺跡同様にその道を意識した建物のあり方と考えられる。

このことは、堅穴建物の主軸上に出入口が想定されるとすれば、建物の主軸方向と道をかなり意識して、集落内で建物を建築しており、集落内の建物を建築する方角、方向にある程度の規制やルールが存在すると考えられる。それは、今回検証した遺跡では、広場や居住域を設定して集落を形成していることや、遺跡ごとの堅穴建物の平面形態や主柱穴の配置、本数にも共通性があることからも、一定のルールを持ちながら集落が成立していると考えられる。

今回は紙幅の関係もあり検討できなかったが、横浜市の二の丸遺跡や長野県塙尻市の俎原遺跡、同県松本市の南中島遺跡でも堅穴建物の出入口と道の関係性がみられることから、今後、これらの遺跡も踏まえて、再度検討したい。

### 注

- (1) 宮坂英光 1957『尖石』茅野町教育委員会
- (2) 桐原健 1995「埋甕」『縄文時代の研究9 縄文人の精神文化』雄山閣
- (3) 浅川滋男 2000『堅穴住居の空間分類』『古代史の論点② 女と男、家と村』小学館

### 文献

- 大山村教育委員会 1990『富山県大山村東黒牧上野遺跡 A 地区発掘調査概要』  
 富山県教育委員会 1973『富山県大沢野町直坂遺跡発掘調査概要』  
 坂上克弘・今井康博 1984「大熊仲町遺跡発掘調査概報」『調査研究集録第 5 冊』港北ニュータウン埋蔵文化財調査団  
 財団法人横浜市ふるさと歴史財団・横浜市教育委員会 2000『大熊仲町遺跡－本文編－』『大熊仲町遺跡－挿図・図版編－』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告 26  
 関市教育委員会 1989『塚原遺跡 塚原古墳群』



図 10 塚原遺跡遺構等配置図(1:800)

堀内 大介（埋蔵文化財センター専門学芸員）

### はじめに

大峪城跡は、富山市五福地内に所在し、古川（旧神通川）に面した平城である。天正 13（1585）年の富山の役（佐々攻め）に際し、本陣が敷かれた白鳥城の出城であったと伝わる。城主が前田家臣の片山伊賀守延高であったことから、別名「伊賀城」とも呼ぶ。大峪城跡には、江戸時代後期の絵図である『越中富山領大ガケ古城図』・『越中大峪之古城分間之図』の 2 枚が現存しており、絵図から本丸と二の丸が並び、それを囲う惣曲輪で構成された並郭式の城であったことがわかっている（富山県理文セ 2006）。

明治 25（1892）年に大峪城跡（五福村字城）に東吳羽尋常小学校が創立し、校舎は城の惣曲輪跡の一部に建てられた。昭和 38（1963）年五福小学校に改称し、同 44 年から新校舎（鉄筋コンクリート造）や体育館をグラウンドとして使用していた城の本丸跡に建てることとなり、敷地拡張などの改修工事が施工された。改修直前の昭和 43 年の姿が写真 1 である。写真から本丸の四方全てに土塁があったことが確認できるが、現在は東土塁しか残存していない。東土塁を除く三方の土塁はこの改修工事の際に削平されたものと考えられる。

平成 28 年に移転した旧五福小学校の跡地利用として、芝生スポーツ広場整備が計画され、それに先立ち令和元年 7 月 24 日～8 月 7 日に試掘調査を実施した。なお、試掘調査前に校舎・体育館の解体工事が行われた。ここに調査成果を報告する。



写真 1 大峪城本丸跡（東から）

### 1 過去の調査

#### （1）平成元年度の試掘調査・本調査

富山県教育委員会が平成元年 5 月 24・25 日、県警職員宿舎建築に先立ち二の丸跡推定地の中央部分 2,796 m<sup>2</sup>を対象に試掘調査を行った。試掘調査では 4 本のトレンチが設定され、その結果、本丸と二の丸の間に幅約 14m の東堀が検出された。堀の深さは二の丸の地山面から約 3.5m であった（富山県埋文セ 1990）。

試掘調査の結果を受けて、同年 7 月 27 日に 128 m<sup>2</sup>を対象に本調査を実施した。その結果、東堀の南東角が検出された。堀の南東角が検出されたことで、絵図どおりに本丸と二の丸を繋ぐ土橋が存在することが確認された。

#### （2）他の試掘調査

惣曲輪内などで個人住宅等建築に先立ち数件の試掘調査を実施したが、遺構を検出した場所はない。

### 2 試掘調査の概要

本丸曲輪部分に 13 ヶ所（R-1T～13T）、本丸斜面部分に 4 ヶ所（R-17T、R-19T～21T）、惣曲輪部分に 4 ヶ所（R-14T～16T、R-18T）の計 21 ヶ所に試掘トレンチを設定して調査を行った。

## (1) 遺構

R-1T (図2・図3、写真2~4) 本丸南西部にトレントを設定した。トレントの南1/3部分は校舎の搅乱を確認した。北2/3部分のうち、地山の検出レベルが北端14.16m、中央14.52m、南端14.22mであり、中央部分に比べて南北が低くなっている旧地形であった。そのため、南北の低い部分には整地盛土層が何層も重なっていることを確認した。整地盛土層からはかわらけ(8~14)が出土した。SK06は北側整地面上(14.70m)から掘り込まれ、規模は検出長1.8m、深さ0.26mを測る。埋土からかわらけ(1~7)が出土した。

R-2T (図4、写真5) 本丸南西角にトレントを設定した。断面観察の結果、地山の直上に厚さ約0.08mの旧表土層(13~14層)があり、その上に残存最大厚0.45mの盛土層(12層)を確認した。昭和44年の工事で削平されずに残存した南土星の基底部と考えられる。土星の南側には新校舎建築の敷地拡張が行われた時の盛土が堆積している。

R-3T (図5、写真6) 本丸西端中央にトレントを設定した。断面観察の結果、トレント東端に残存最大厚0.44mの盛土層(8層)を確認した。残存した西土星の基底部と考えられる。土星西側には敷地拡張時の盛土が堆積している。

R-4T (図2、写真7) 本丸中央部にトレントを設定した。トレントの大半は体育馆の搅乱で、一部にピットや土坑を検出した。表土直下が地山であり、校舎建築時の造成で城の整地盛土層は削平されたと考えられる。地山の検出レベルは14.34mである。

R-5・6T (図2、写真8) 本丸中央部にトレントを設定した。R-5TおよびR-6T東端は体育馆の搅乱を確認した。R-6T東半分はR-4T同様に表土直下に溝、土坑を検出した。地山の検出レベルは14.51mである。西半分にはR-1T同様に城の整地盛土層を検出した。

R-11T (図6、写真9) 本丸東端中央にトレントを設定した。東土星の断割りである。断面観察の結果、東土星は簡易な土の積み上げで作られており、版築工法など強固な作り方ではない。地山の検出レベルは14.60mで、土星の高さは地山から1.17mである。

R-13T (写真10) 本丸北端東側にトレントを設定した。体育馆北側にあたる。地表面から深さ1.25mまで体育馆の搅乱を確認し、その下に北側に約45°の傾斜を持つ地山を検出した。地山の北側には敷地拡張時の盛土が堆積している。

R-15・16T (写真11) 惣曲輪にトレントを設定した。1m弱のグラウンド整地盛土・学校造成盛土などの搅乱の下に砂質シルトが堆積している。戦国時代の遺構・遺物ではなく、惣曲輪には遺跡は広がっていない。

R-17T (図7、写真12~15) 本丸北側斜面(築山)中央にトレントを設定した。築山の頂点から17.8m北に北堀南法面を検出した。R-17T延長上に設定したR-18Tで北堀の南肩が検出しなかつたため、堀幅は不明であるが、検出長5.6m以上を測る。堀は厚さ0.90mの表土・搅乱下で検出し、検出レベルは10.86mである。堀の形状は箱堀であり、堀底の最深レベルは8.90m(まだ深い可能性あり)である。本丸曲輪の現地表面レベルが14.78mであり、堀底との比高差は5.88mとなる。北土星を復元すると、堀底と土星上面の比高差は約7mとなる。法面の角度は約49°を測り、やや鋭角な法面である。最下層19・20層の堆積が粗砂であり、堀は水堀ではなく空堀であった可能性が高い。

R-19T (写真16) 本丸北側斜面西側にトレントを設定した。堀の北西角を検出した。

## (2) 遺物

かわらけ(図8) 1~4、11~14は、丸底から体部・口縁部が直線的ないしは緩く外反して立ち上がり、口縁端部内面には端面をもつもので、筆者がC3類に分類したもの(堀内2019)である。5~10は丸底から体部・口縁部が直線的ないしは内湾して立ち上がり、口縁端部は丸めるか少しつまみ上げるもので、概ね筆者がA類に分類したものである。かわらけの年代は、C3類が存在すること、白鳥城二の丸(富山市教委1984)や城址公園H20-3T SE01(富山市教委2009)出土かわらけと類似することなどから、16世紀末頃に比定する。

### 3まとめ

試掘調査の成果として、次のようなことが分かった。①城（本丸）は大掛かりな盛土で作られていない。②本丸斜面は切岸である。③本丸の曲輪内では整地が行われた。④本丸土壘は簡易な積み上げで作られている。⑤本丸西土壘と南土壘の基底部は残存している。⑥本丸の一部は校舎・体育館・敷地拡張・築山造成などの大きな改変を受けている。⑦堀は空堀であった可能性が高い。⑧旧グラウンド部分である惣曲輪の一部には遺跡は広がっていない。⑨城は遺物から16世紀末頃に造成されたと考えられる。

最後に本稿を書くにあたり、高岡徹氏、納屋内高史氏にご意見、ご協力をいただきました。記して謝意を表します。

#### 参考文献

富山県埋蔵文化財センター 1990『富山県埋蔵文化財センターワークス』

富山県埋蔵文化財センター 2006『富山県中世城跡調査総合調査報告書』

富山市教育委員会 1984『白鳥城跡調査概要（III）』

富山市教育委員会 2009『富山城跡調査確認調査報告書』

堺内大介 2019「越中における近世成立期の土師器皿の諸様相—富山城跡出土資料から—」『北陸にみる近世成立期の土器・陶磁器様相—城下町とその周辺遺跡の土師器皿(かわらけ)を中心に—』(公財)石川県埋蔵文化財センター

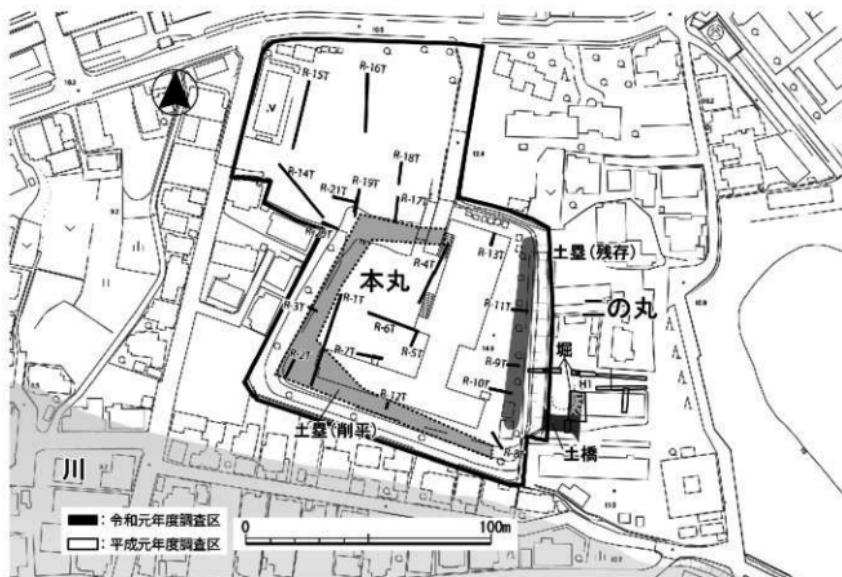


図1 令和元年度・平成元年度試掘調査トレンチ位置図 (1:2000)

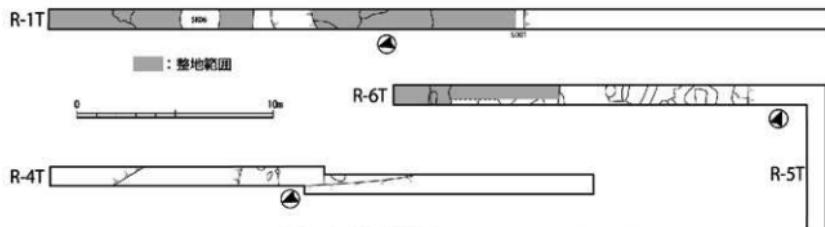


図2 令和元年度試掘調査トレンチ平面図 (1:250)

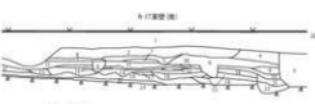
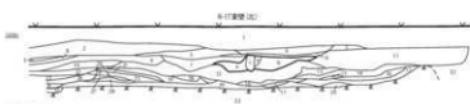


図3 R-1T 東壁 断面図 (1:80)

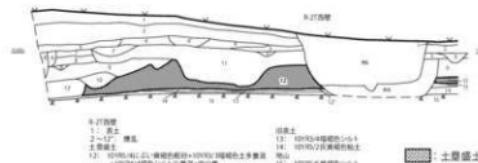


図4 R-2T 西壁 断面図 (1:80)



図5 R-3T 南壁 断面図 (1:80)

This figure is a geological cross-section diagram. It features a series of horizontal layers representing different geological units. The top layer is labeled 'II' and contains several small circles. Below it is a layer labeled 'I'. A thick, dark gray layer is labeled 'III'. At the bottom, there is a layer labeled 'IV'. Various numbers and letters are scattered throughout the diagram, likely indicating specific geological features or measurements. A scale bar is located at the bottom left.

図6 R-11T(木丸東土堀)北壁・東壁断面図(1:80)

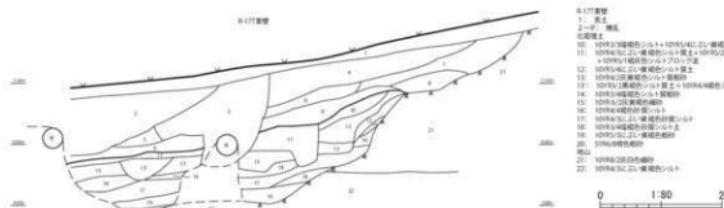


図7 R-17T 東壁 断面図 (1:80)

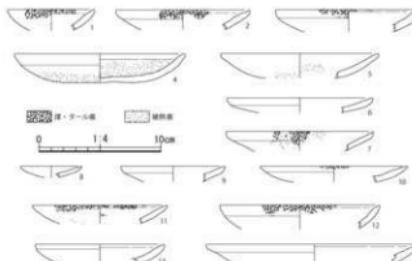


圖 8 出土遺物 (1:4)

表 1 遗物觀察表

番号	トレンチ	道構	種別	透視	寸法(寸)		備考
					内寸	外寸	
1	R-1T	SK06	外寸四角型	直	7.0	8.0	1.7 明显
2	R-1T	SK06	外寸四角型	直	10.6	11.6	1.6 明显
3	R-1T	SK06	外寸四角型	直	11.7	12.7	1.9 明显
4	R-1T	SK06	外寸四角型	直	13.8	2.4	内面削出被热版
5	R-1T	SK06	外寸四角型	直	12.8	2.0	外外面被热版
6	R-1T	SK06	外寸四角型	直	11.8	3.2	
7	R-1T	SK06	外寸四角型	直	12.0	3.6	1.6 明显。内外削被热版
8	R-1T	SK06	外寸四角型	直	5.0	9.95	
9	R-1T	SK06	外寸四角型	直	8.4	9.3	
10	R-1T	SK06	外寸四角型	直	12.0	1.3	1.3 明显
11	R-1T	SK06	外寸四角型	直	11.0	1.5	1.5 明显。外弯曲被热版
12	R-1T	SK06	外寸四角型	直	13.0	2.0	1.5 明显
13	R-1T	SK06	外寸四角型	直	10.5	1.6	
14	R-1T	SK06	外寸四角型	直	17.7	3.7	



写真2 R-1T 全景（北から）



写真3 R-1T 整地層断面（南西から）



写真4 R-1T SK06 断面（西から）



写真5 R-2T 断面（北東から）



写真6 R-3T 土壠基底部断面（南から）



写真7 R-4T 遺構検出状況



写真8 R-6T 遺構検出状況（西から）



写真9 R-11T 東土壠断面（南西から）



写真 10 R-13T 断面（北から）



写真 11 R-16T 断面（東から）



写真 12 R-17T 北堀検出状況（南から）



写真 13 R-17T 北堀全景（南西から）



写真 14 R-17T 北堀断面①北半分（西から）



写真 15 R-17T 北堀断面②南半分（西から）



写真 16 R-19T 堀の北西角（北西から）



写真 17 本丸から白鳥城を臨む（東から）

## はじめに

筆者は、平成 29（2017）年の松川貯留管立坑工事の工事立会で近世富山城北内堀より古い堀を検出し、戦国期かわらけ、珠洲、瀬戸美濃などが出土することから、中世富山城の北堀の存在を推定した（富山市上下水道局・富山市教委 2018）。

令和元（2019）年に旧図書館本館解体工事などに伴い、近接地点において試掘調査・工事立会を実施したことから、中世富山城の北堀について再度検討する。

## 1 試掘調査・工事立会の結果

試掘調査前の工事立会で、旧図書館本館（標高 8.0m）の西側 2/3 が基礎工事で 2m 近く（標高 5.8m 付近まで）総掘りが施工され、近世富山城の築堤がほぼ消失していることを確認した。東側 1/3 は地下 1 階構造のため、総掘り以下地山も含め掘削されていた。

### （1）試掘調査

旧図書館本館部分に 2ヶ所（R1-1T・2T）、駐車場部分に 1ヶ所（R1-3T）の計 3ヶ所に試掘トレンチを設定した。3ヶ所とも遺物の出土はなかった。

①R1-1T（図 1） 8月 22 日に実施した。旧図書館本館の総掘りレベルより下にトレンチを設定した。断面観察の結果、トレンチ南端に近世富山城内堀の北法面を検出した。その下に近世内堀より古い堀（以下、旧堀）の南法面を確認した（写真 1・2）。旧堀の埋土は南から北への斜堆積が複数層確認でき、城のある南側からの埋め立てと推測する。

②R1-2T（図 2） 10月 25～28日に実施した。R-1T の北側延長上で、旧図書館本館の総掘りレベルより下にトレンチを設定した。断面観察の結果、トレンチ中央で、標高 4.8 m で地山の砂礫層（17 層）を掘り込む跡（写真 4）があり、R1-1T で検出した旧堀の北法面に対応する。旧堀は小礫混じり灰黄褐色粗砂（21・22 層）で埋没している。地山の 17 層は北に向かって下がる（標高 4.8～3.6m）。トレンチ北半には、波状の流水痕跡が残る砂層（1～16 層）などが北に向かって緩やかに斜堆積しており、旧堀埋没後に発生した旧神通川洪水による堆積層と考えられる。

③R1-3T（図 3） 9月 6 日に実施した。旧図書館駐車場東端にトレンチを設置した。駐車場路盤碎石、旧公園表土の下に近世富山城北内堀の北堀肩および築堤を検出した（写真 8）。堀は戦災処理土で埋まっている。

R1-1T・2T の結果、旧堀の規模は検出レベルで幅約 15.3m（8.5 間）である。深さは近接する H29 工事立会で検出した堀底の標高を基準にすると、R1-1T 堀削面から約 4.5m である。

### （2）工事立会

R1-1T の結果を受けて、9月 9 日に工事用スロープ掘削の工事立会を実施し、旧堀の埋土である灰黄褐色粗砂層の斜堆積を確認した（写真 7）。遺物の出土はなかった。

## 2 既往の調査との比較（図 4）

（1）H19-3T R1-2T の東 190m に設置したトレンチである。断面観察の結果、標高 5.6m を境に 8～22 層と 23～27 層の異なる堆積した盛土層を確認し、8～22 層は 3 期築堤の盛土、23～27 層は 2 期築堤の盛土とした。地山の砂礫層（30 層）は北に向かって下がる（標高 5.0～4.1m）（富山市教委 2008）。

R1-2T と H19-3T の層位を比較すると、地山の砂礫層はほぼ同一レベルで検出し、北に向かって下がる状況が共通することから同一の地山と考えられる。また、H19-3T の 23～27 層は

黄色系と灰色系の砂質土が互層となるので2期築堤の盛土と報告しているが、北に向かって緩やかに砂質土が斜堆積する状況がR1-Tの1~16層の堆積状況と類似することから、同一の洪水堆積層である可能性が高いと判断する。一方、3期築堤の盛土としたH19-3Tの8~22層と対応するR1-2Tの層は削平されていて比較はできない。

(2) H16-5T H19-3Tに近接する位置に設置したトレンチである。断面観察の結果、標高6.4~5.6mに砂礫層(ただし、5.6m以下に続く)があり、その層から戦国期かわらけ、五輪塔板石塔婆などが出土していることから、戦国時代に築造された第1期築堤の盛土層としている(富山市教委2006)。戦国時代の遺物は、前述したH29年度調査でも旧堀から出土しており、この砂礫層がR1-1T・2Tで旧堀の埋土とした小砾混じり粗砂層と対応する可能性があり、西之丸の北側で確認した旧堀が本丸の北側にも繋がっていると推測する。

### 3まとめ

今回の調査から、本丸と西之丸の北側に旧堀とした中世富山城の堀が存在すると言える。中世富山城の堀について、『富山之記』には西の神通川を除く「三方に二重の堀あり」との記述があり、今回確認した堀と過去の調査(H15-2T、H16-2T)で検出した幅約4mの堀(富山市教委2004・2006)と二重の堀と捉えると、記述と齟齬がないと考えられる。

図4に示したように2本の堀は規模の差が大きく、今回確認した堀が人為的に掘られたのではなく、氾濫等によって出来た旧神通川の流跡を利用してしたものではないかと推測する。しかし、堀は城側から砂層が斜堆積しており、人為的に埋めたものと考えられる。この人為的埋立ての要因として、天正13(1585)年の秀吉による富山城の破却命令が有力ではないかと推測する。今後の発掘調査で、このことが解明されることを望む。

最後に本稿を書くにあたり、古川知明氏、野垣好史氏、納屋内高史氏にご意見、ご協力をいただきました。記して謝意を表します。

#### 参考文献

- 富山市教育委員会 2004『富山城跡試掘確認調査報告』
- 富山市教育委員会 2006『富山城跡試掘確認調査報告』
- 富山市教育委員会 2008『富山城跡試掘確認調査報告』
- 富山市郷土博物館 2005『富山城ものがたり』
- 富山市上下水道局・富山市教育委員会 2018『富山城跡発掘調査報告』

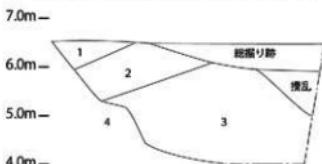


図1 R1-1T 西壁断面図

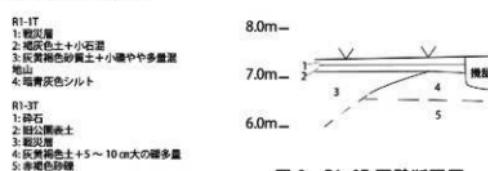


図3 R1-3T 西壁断面図

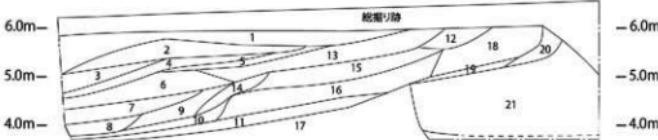


図2 R1-2T 東壁断面図 (1:100)

R1-2T  
河岸段階(小括字は流水痕跡が見られる層)  
1:10YR4/2 にぶい黄褐色砂  
2:10YR5/3 にぶい黄褐色砂  
3:2.5Y5/2 黄褐色砂  
4:2.5Y5/2 にぶい黄褐色砂 + 10YR4/4 棕褐色土柱状複数層  
5:10YR3/2 棕褐色シルト  
6:10YR5/2 淡灰褐色砂 + 10YR4/3 にぶい黄褐色土柱状複数層  
7:2.5Y5/2 にぶい黄褐色砂  
8:10YR4/1 暗灰褐色砂 + 10YR4/2 淡黄褐色細砂等状況

9:10YR5/1 淡灰褐色シルト細砂  
10:2.5Y4/2 淡灰褐色砂質土  
11:10YR5/4 にぶい黄褐色砂  
12:10YR3/2 黑褐色土 + 綿維  
13:10YR4/3 黄褐色砂  
14:10YR4/3 にぶい黄褐色シルト + 10YR5/2 淡黄褐色砂ブロック状況  
15:10YR5/2 にぶい黄褐色砂  
16:10YR5/2 にぶい黄褐色砂 + 10YR5/2 淡黄褐色細砂等状況  
17:2.5Y4/2 淡灰褐色砂  
18:10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 + 小石(礫)少量混  
19:10YR4/2 淡黄褐色砂質土 + 小石(礫)少量混  
20:10YR5/3 にぶい黄褐色細砂 + 遠多量混  
21:10YR4/2 淡黄褐色砂質土 + 小石少量混  
22:10YR4/2 淡黄褐色砂質土 + 小石少量混

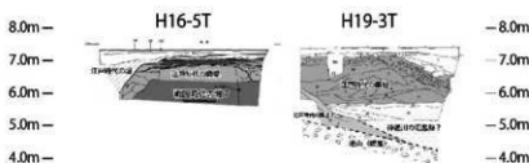
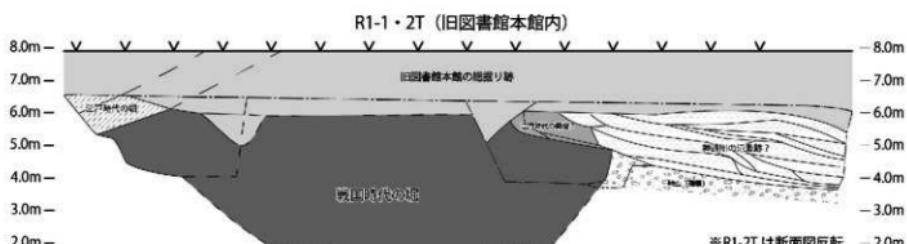
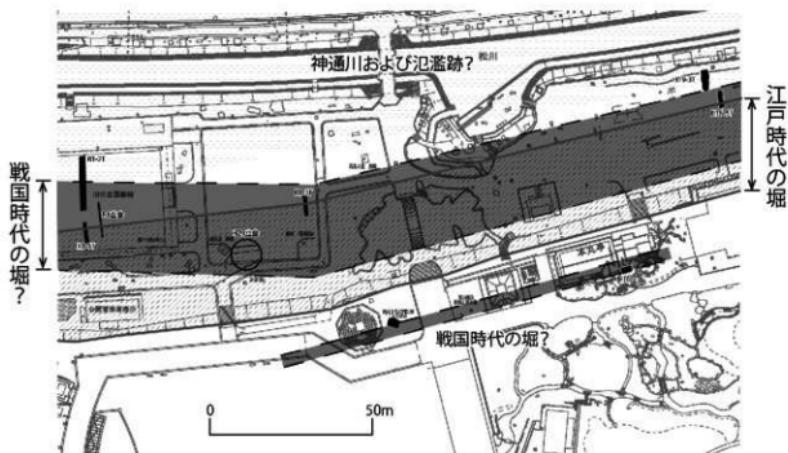


図4 中世富山城北堀推定平面図 (1:1500) および断面比較図 (1:150)



写真1 R1-1T 全景（北東から）



写真2 R1-1T 断面（東から）



写真3 R1-2T 全景（南西から）



写真4 R1-2T 旧掘断面（西から）



写真5 R1-2T 汚濁堆積断面（北西から）

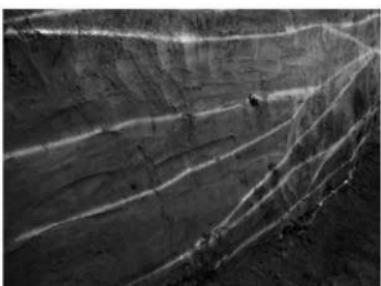


写真6 R1-2T 汚濁堆積近景



写真7 R1 立会全景（西から）



写真8 R1-3T 全景（南東から）

野垣 好史 (埋蔵文化財センター主査学芸員)

## はじめに

城址公園整備に伴い富山城跡本丸において行った 2008 年度調査は、2016 年に発掘調査報告書を刊行した(富山市教委 2016。以下「報告書」とする)。その後、調査で確認していたいくつかの石が礎石の可能性が高いと判断されたため、ここに補遺として追加報告を行い、合わせて県内の他事例から礎石間隔について若干の検討を行うものである。

### 1 2008 年度調査の礎石出土状況

2008 年度調査は本丸の北西部において行った。調査面積は 118 m<sup>2</sup> である。上層面の明治期の遺構と、下層面の 16 世紀後半～17 世紀の遺構を確認した。

報告する礎石は、上層面の調査時に石の上面を検出していたものである。そのため報告書では上層面の遺構平面図に石を図示していた(図 1)。いくつかの石が認められるが、このうち礎石と判断されるのは番号を付けた 3 石である。しかし、これらは以下で示すとおり下層面に伴うと考えられるため、改めて下層面に配置し直したのが図 2 である。なお、礎石以外の石もすべて下層面に配置し直している。礎石は、上層面の南北に延びる近代溝の底面付近にも 1 石が存在(礎石 4)していたため計 4 石がある。以下、図 2 を基に検討する。

これら 4 石は一直線上に並び、間隔が 0.9m または倍の 1.8m で一定である。礎石上面の標高は 9.2 ～ 9.34m で、東に向かってやや高くなる傾向がある。礎石は長軸 40 ～ 50cm 程の自然石を用いる。

これらの礎石の下面レベルが、ほぼ下層面に相当する。下層面は砂質土を薄く複数層盛土した整地層があり、上面は硬く縮まっている(図 2 の網掛け範囲)。調査当時は、この整地層と礎石との関連を認識していなかったが、建物建築前に行われた整地と判断し、整地と礎石設置は一連の作業として行われたものと考える。

報告書で指摘したとおり、この整地層は調査区全面ではなく、2ヶ所に分かれて不整形態に確認された。土層観察によると、整地面は最初からこうした不整形態だったのではなく、より広範囲にあったものが、後の時期(17 世紀中頃～後半)に削平、掘り込まれたことにより、一部残存した結果である。この削平の際に礎石も一緒に除去され、一部が残存することになったのであろう。したがって、図 2 の礎石 3 と 4 の間の整地面が途切れる場所にも 1 石存在したとみられ、また東西方向にもさらに続いている可能性がある。礎石列より北側は整地面が残るにも関わらず礎石は認められないため、確認した礎石列が北辺をなす可能性が高い。なお、礎石 4 の北西にある石材は、削

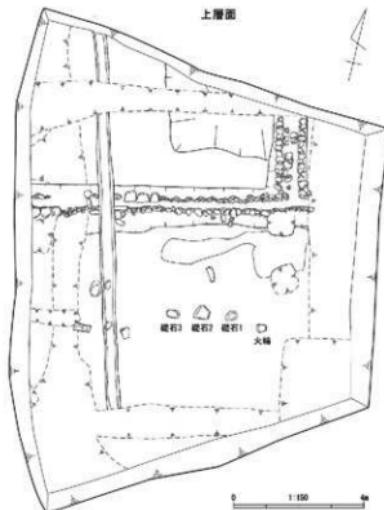


図 1 報告書で示した上層面平面図  
(富山市教委 2016 を一部改変)

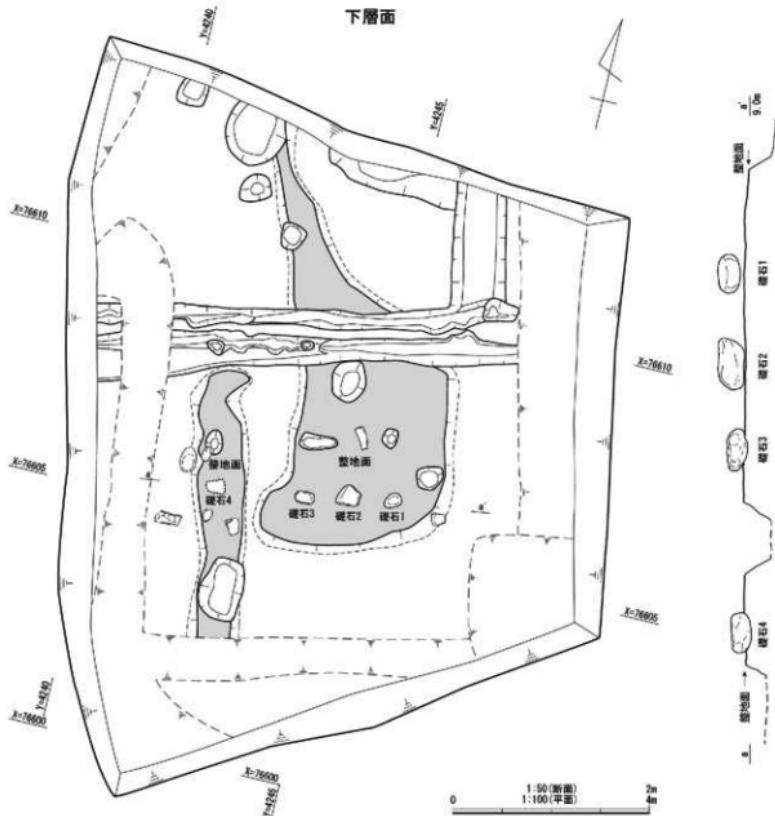


図 2 下層面平面図



図 3 碾石検出状況

平で原位置を離れた礎石の可能性があり、また礎石1の東側で見つかった五輪塔火輪も、転用材として使われた礎石が移動した可能性がある。

## 2 磂石の時期についてー礎石間隔の検討を踏まえてー

次に礎石の時期を検討する。礎石の基盤層と解釈した整地層について、報告書ではその時期を出土遺物から16世紀後半と想定し、17世紀初頭の慶長期の可能性も残るとした。今回、改めて報告書掲載遺物以外も確認したが、近世遺物を含まず、土師器皿も16世紀前半頃のものを含むなど、古い様相を認めるところから16世紀後半の中世富山城期の可能性がより高いと判断する。

以下では、遺物からみた上記の年代観を礎石間隔に注目して検証したい。

今回報告した礎石は90cm(3尺)間隔で並び、6尺1間(1.818m)を基準に、その半分で設置された可能性が高い。1間が何尺であるかは地域、時期によりに違いがあるため、まずは県内の礎石の事例を概観し、そこから今回報告の礎石建物の時期を検証してみたい。

表1は、富山県の中世から近世(一部近代)の礎石のうち、礎石間隔が判明する例である。概ね上から古い順に並べている。このうち富山城跡例と同じ6尺1間=約1.8mが基準となっている事例に着目する(注1)。

これをみると16世紀後半頃に、6尺1間を基準にしていると推定できる例が一定数見て取れる。高岡市石名木舟遺跡2例、富山市白鳥城跡1例のほか、魚津市松倉城跡の3.6mも6尺の2倍とみてよいだろう。

くわえて注意されるのは、石名木舟遺跡は同じ16世紀後半に、6尺(約1.8m)になる2例とそうでない2例が併存する。同じく16世紀後半とみられる白鳥城跡も、6尺のものが1例、そうでないと判断される例が2例ある。資料が少ないが、これらは16世紀後半のなかで、6尺を基準とする尺度への推移があった状況を示すものかもしれない。

その後の17世紀初頭の慶長期は、高岡城跡の礎石がある。50m以上四方と推定される大型

表1 富山県の中世から近世の礎石建物

市町村	遺跡名	性格	遺構名	時期	間数	礎石の範囲	備考	文献
南砺市	善城寺堂宇遺跡	寺院	礎石建物1	9世紀末	3×5	1.9m(南北軸), 2.0m(東西軸)	本堂とみられる	富山県文化調査委員会ほか(1993)
富山市	中名V盛跡	集落	SB010	12世紀後半~13世紀初頭	3×2か1	1.6m(南北軸)	御堂か	富山県文化振興財團(2003)
富山市	道場1	集落	SE024	14世紀中頃~後	5×5	1.0m(南北軸)	庄部分のみ石(東石)あり	富山県文化振興財團(2004)
南砺市	ショウゴン寺遺跡	寺院	礎石建物1	14~15世紀	3×3	2.0m, 1.8m	周囲に縁がめぐる(縁幅0.9m)	富山県文化調査委員会ほか(1993)
上市町	伝真興寺跡	寺院	本堂	15~16世紀?	5×4または5×5	2.3m		上市町教委1999-2000
上市町	伝真興寺跡	寺院	塔	15~16世紀?	3×3	1.0~1.3~1.0m		上市町教委1999-2000
上市町	伝真興寺跡	寺院	堂	15~16世紀?	2×2	1.3m, 1.5m		上市町教委1999-2000
立山町	芦峯寺堂宇遺跡	寺院	北堂下層礎石 建物2	13世紀末~16世紀初	2×2	1.5m~1.8m		立山町教委1994
立山町	芦峯寺堂宇遺跡	寺院	建物2	13世紀末~16世紀初	2×1以上	1.0m, 1.3m		立山町教委1994
高岡市	石名木舟遺跡	城下町	SB130	16世紀後半	4×2	1.6m, 2.2m		富山県文化振興財團(2002)
高岡市	石名木舟遺跡	城下町	SB131	16世紀後半	2×2	4m, 底は0.9m	底あるいは墨れ縁付き	富山県文化振興財團(2002)
高岡市	石名木舟遺跡	城下町	SB129	16世紀後半	6×5か	1.8m		富山県文化振興財團(2002)
高岡市	石名木舟遺跡	城下町	SB132	16世紀後半	4×2	1.8m, 2.4m, 底は1.5m		富山県文化振興財團(2002)
富山市	白鳥城跡	城館	イロ群	16世紀後半	8以上×4	1.8m	2種の可能性高い	富山市教委1981
富山市	白鳥城跡	城館	イ群	16世紀後半	8×1以上	0.54m	礎石は2組に分かれれる	富山市教委1983
富山市	白鳥城跡	城館	口群	16世紀後半	1以上×7	1.32m	礎石に火輪の転用あり	富山市教委1983
富山市	富山城跡	城館	-	16世紀後半	4×1以上	0.9m	基礎面を盛土・整地	本稿
魚津市	松倉城跡	城館	礎土上面礎石	16世紀中頃~後	1以上	3.6m		魚津市教委2019
高岡市	高岡城跡	城館	本丸御殿	17世紀初頭(慶長)	50×40方以上	1m, 1.15m, 1.3m, 1.9m, 1.95m, 2.1m		高岡市教委2013
立山町	芦峯寺堂宇遺跡	寺院	南室寺礎石建物	17世紀後半~18世紀初頭	5×4	1.8m		立山町教委1994
立山町	芦峯寺堂宇遺跡	寺院	北室寺礎石建物	17世紀初頭~弘治	5×4	1.84m	当初2×3間、後に拡張	立山町教委1994
朝日町	猪飼所跡の跡跡	跡所開闢	下の跡跡	江戸	1×1	1.59m, 1.87m(縦から計測)		朝日町教委1994
富山市	富山城跡	城館	SB01	江戸後期か近代	20×10以上	1.82m	石は方形土坑内に据える	富山市教委2017.11
富山市	富山城跡	城館	-	近代	不明	3dm		富山市教委2017.2

建物で、礎石間隔は調査報告書から数値を拾うと、1m、1.15m、1.3m、1.9m、1.95m、2.1mがある。6尺1間（約1.8m）の基準とは異なるようにみえるが、これだけをもって慶長期の尺度を6尺以外と判断するのは適当ではないと思われる。高岡城跡の礎石は本丸御殿とされ、建物規模が他事例より格段に大きい。真々制か内法制かという設計方法の違いも考慮する必要があり（西 1986）、その他の事例と同じ設計基準で扱えるかという問題がある。また、1例のため時期を代表させる事例としうるのか難しい。したがって、富山城の礎石との比較にあたっても、慶長期の高岡城跡と礎石間隔が異なるとの理由で、慶長期の可能性を排除できることにはならないと考える。その後の近世から近代にかけては、資料に限りがあるものの、6尺（約1.8m）とみられるものが多いようである。

以上から富山城跡の礎石はどの時期に位置づけられるか。先述のとおり出土遺物からは、16世紀後半が有力で、17世紀初頭の慶長期の可能性も残るとした。一方、礎石間隔からみると、富山城跡と同じ6尺1間を基準にしたと推定できる事例が16世紀後半に複数認められる。17世紀初頭の慶長期の礎石間隔がわかる高岡城跡は、6尺1間の基準とは異なるよう見えるが、大規模建物という特殊事例のため安直な対比は適当でないと思われ、これとの比較から慶長期かどうかを判断するのは難しいと思われる。結局、出土遺物からみた場合の時期幅を絞り込むには至らないものの、有力とした16世紀後半に同じ間隔をとる礎石が県内で複数みられることは遺物の年代観と矛盾せず、16世紀後半の可能性を裏付けると考えたい。

### おわりに

2008年度の富山城跡調査の補遺として礎石について報告した。礎石の基盤層である整地層の出土土器から、時期は16世紀後半の可能性が高いと考え、その時期を礎石間隔から検証した。今回の富山城例は、6尺1間を基準にその半分の3尺で設置したとみられるが、県内の他遺跡においても、6尺1間の例が16世紀後半に複数みられることから、富山城跡の礎石を16世紀後半の中世富山城期とすることと矛盾しないと考えた。

西和夫氏は6尺1間が徳川氏の検知と結びつくものであるらしいことを示唆しているが（西 1986）、県内の6尺の例はそれより古く、制度としての基準によるというより、地域的な尺度として使用されたものといえるかもしれない。また、藤本強氏は、東京大学の医学部附属病院地點における一間の基準尺度について、1650～1665年頃に6尺3寸間から6尺間（江戸間）に変わったことを指摘しているが（藤本 1990）、本稿では6尺以外の尺度については触れられなかった。今後の課題とする。

中世富山城については、これまで堀の配置からみた郭構造のほか、各種遺構の配置も一部明らかになっている。今回の礎石は建物規模や性格は不明ながら、その北辺の位置と方向がわかる資料として重要である。

### 注

(1) 級石間隔については報告書に記載があるものはそれにより、記載がないものは報告書の図から計測した。「約」と記載されている場合もあるなど、誤差が考慮され、記載の1.8mを6尺(1.818m)としてよいか不確実性があるが、資料が少ないためこれらも含めて検討したい。

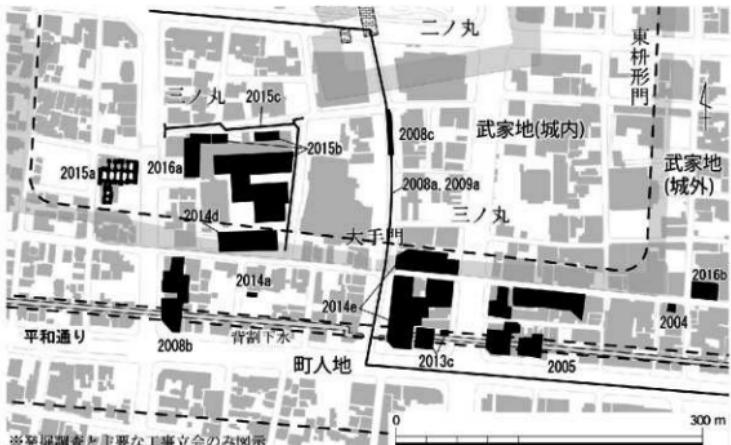
### 主要参考文献

- 高梨清志 2004「越中の様相」『据立柱建物から礎石建物へ』北陸中世考古学研究会  
富山市教育委員会 2016『富山城跡発掘調査報告書』  
西 和夫 1986「一間の長さの変遷とその地域分布」『列島の文化史』3 日本エディタースクール  
藤本 強 1990「江戸時代の基準尺度について」『東京大学本郷構内の遺跡 医学部附属病院地點』  
堀内大介 2019「越中における近世成立期の土師器皿の諸様相」『北陸にみる近世成立期の土器・陶磁器様相』(公財)石川県埋蔵文化財センター

鹿島 昌也（埋蔵文化財センター専門学芸員）  
新宅 輝久（富山考古學会員）

### はじめに

今回は、まず前号で資料紹介を行った総曲輪フェリオ地区から西約 300m の北陸街道沿いの町人地並びに武家地にまたがる、総曲輪四丁目・旅籠町マンション（プレミスト総曲輪）地区（以降、旅籠町マンション地区と呼称）出土の遺物について紹介する。平成 20（2008）年度に発掘調査が実施され、21 年度末に報告書（富山市教育委員会ほか 2010）が刊行されているが、貿易陶磁器については分類されておらず、収蔵庫の報告書未掲載品の中から抽出できたものである。後半では、旅籠町マンション地区および総曲輪レガートスクエア地区（富山市教育委員会 2017・2018a, b）において出土していた西洋産陶磁器についても紹介する。



（調査年度を示し、報告書刊行年度とは異なる）

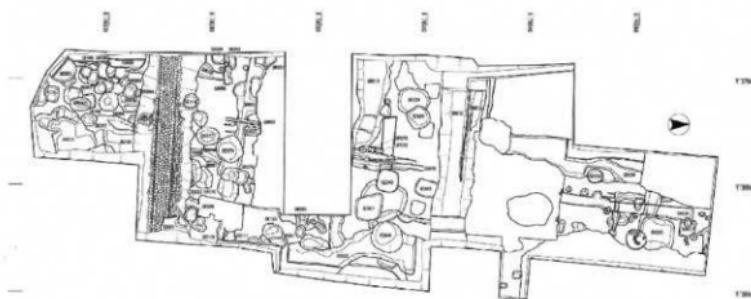


図 1 富山城跡・富山城下町遺跡調査地点（上）と総曲輪四丁目・旅籠町マンション地区平面図（下）

## 1 富山城下町遺跡主要部（旅籠町マンション地区）出土貿易陶磁器について

旅籠町マンション地区（図1 2008b 地点）出土の貿易陶磁器は、今回確認した遺物の合計点数は28点であった。この中には、中世期の青磁片なども含まれるが、その多くは磁器製品であった。特に17世紀代の漳州窯産の皿類や19世紀代の景德鎮産を中心とする、いわゆる清朝磁器が多く出土している。これら出土遺物について、できる限り実測可能なものについては、図化を心がけ、細片のため図化ができなかったもので特徴的な遺物については、写真掲載を行った。

図2-1は漳州窯産の皿である。底部は砂目で内面には龍の文様が見られる。全体的に白化粧土を施し、透明釉を掛けている。表面にはかいらぎが見られ、器は焼き歪みが発生している。全般的に雑な作りではあるといえる。時期は、17世紀前半頃のものである。2は景德鎮窯産の皿であり、高台は砂目となる。皿内面には、「寿」の文字が入り、その周辺には、松、竹、梅が入る構図となる。17世紀代のものと考えられる。3は景德鎮窯産の小皿であり、内面には草花文を配し、口縁端部には一条の圈線を回す。高台内にも呉須の痕跡が見られるものの、欠損のため詳細は不明である。19世紀代の遺物である。4は、瑠璃釉の皿の破片である。高台疊付けは露胎となり器面内面には、無数の線状痕が見られる。使用痕と考えられる。19世紀代の遺物である。5はSE37より出土した漳州窯産の大皿の破片である。高台は砂目となり体部外側下半には二条の圈線を巡らす。胎土には白化粧土を施し透明釉を掛ける。高台内は露胎となりロクロヘラケズリ痕が見られる。内面の文様は細片のため全体像は不明であるが、吉祥文であろうか。時期は17世紀前半頃のものと考えられる。これと同産地、同器種の細片の遺物がSD001からも1点出土している。6は景德鎮窯か德化窯産の煎茶碗である。同種の碗には、高台内に祝寿文が入るが、本遺物には見られず、体部内外面に捻花文が配される。形状は端反りタイプであり、通常5客以上の1セットとして使用されるものであったと考えられる。時期は18世紀後葉、末葉～19世紀第2四半期頃のものと考えられる。7は德化窯産の白磁小碗である。前回報告した総曲輪フェリオ地区（図1 2005地点）同様でも特に多く出土していたタイプの遺物であり、旅籠町マンション地区においても、図化した遺物と合わせて3点出土している。ともに型押し成形で、体部外面に藍彩のものではなく、すべて無地のものであった。19世紀第2四半期頃のものと考えられる。8は景德鎮窯産の向付の底部片である。見込みには若干の火熱痕も見られ事から、火入れとして使用されていた事も考えられる。見込み部分には二条の圈線の内面に唐草文を配するものである。体部、口縁部は意図的な欠損が行われており、あえて見込みの文様を残す様にされていた。図3-11は景德鎮窯産の青花の盤である。破片での出土であったが、円弧状の連続文様の一部が描かれている事が確認でき、いわゆる名山手のものであると考えられる。全容は不明であるが、草花文を配したものであったと考えられ、口縁端部は波状となっている。17世紀代のものであろう。図3-12は景德鎮窯産の小坏片である。内外面共に草花文を配し、特に見込みには緻密な文様が見られる。18世紀末葉～19世紀前葉頃と考えられる。図3-13、14は景德鎮窯産の五寸皿と考えられるものである。底部片での出土であったが、内面には線書きのみの花唐草文を配し、高台内には『大清嘉慶年製』かとされる銘が入る。時期は19世紀前葉頃と考えられる。

青花以外には、青磁も出土している。図2-9は大盤であり、口縁部は小波状となるものである。中世期のものと考えられ、龍泉窯のものと考えられる。10の青磁片は用途不明のものである。底部には、何かと接合する為の穴が開口し、磁軸はその箇所には掛からない。高足坏であろうか。法量の違いはあるものの、同種に類似するのものが中国浙江省寧波市博物館に収蔵されている盤盆とされるものに見られる（注1）。それに従えば、明代のものと考えられる。

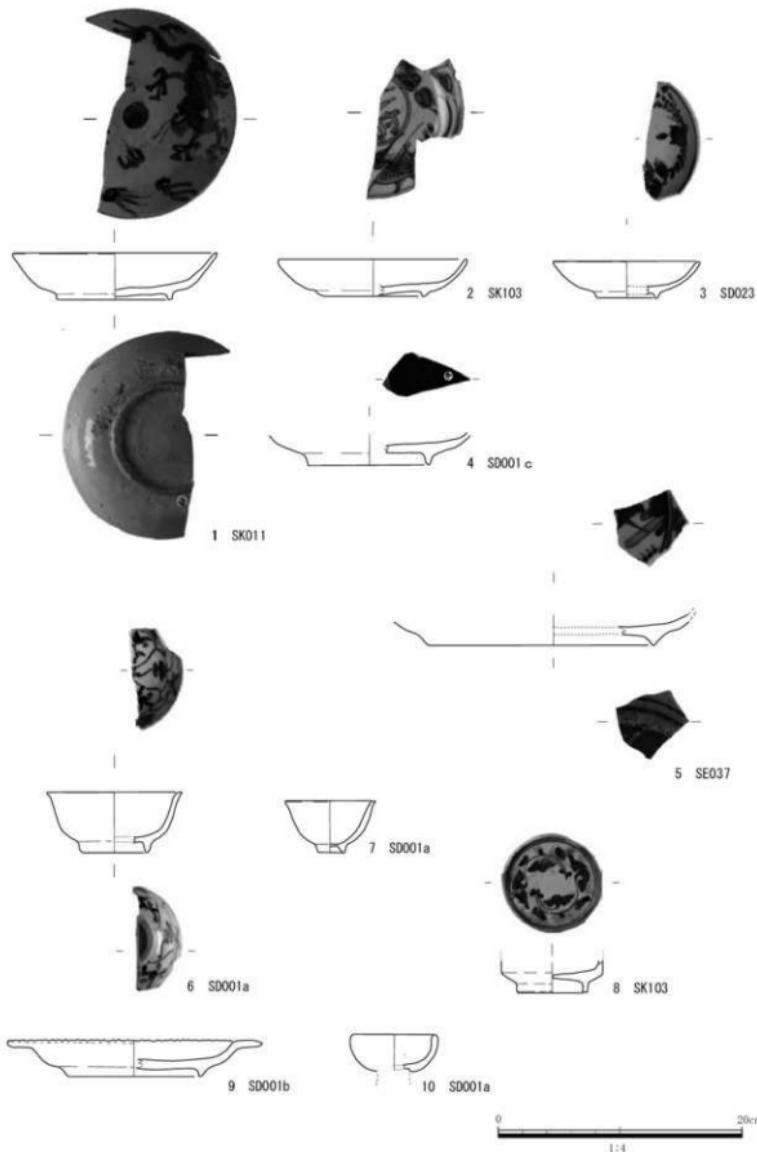


図2 富山城下町遺跡（旅籠町マンション地区）出土貿易陶磁器 （1:4）

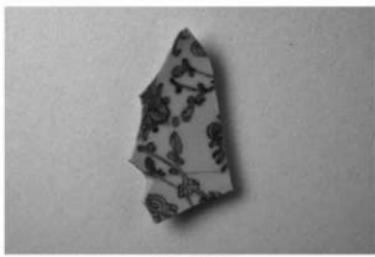
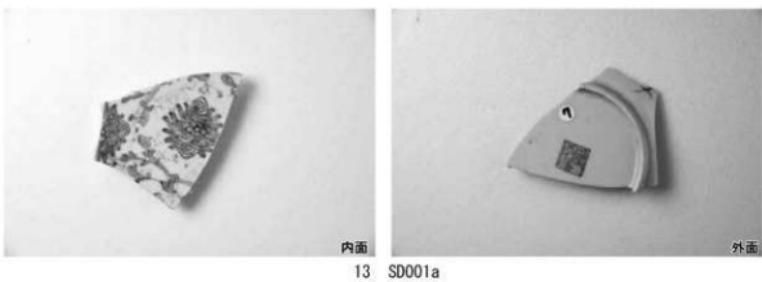
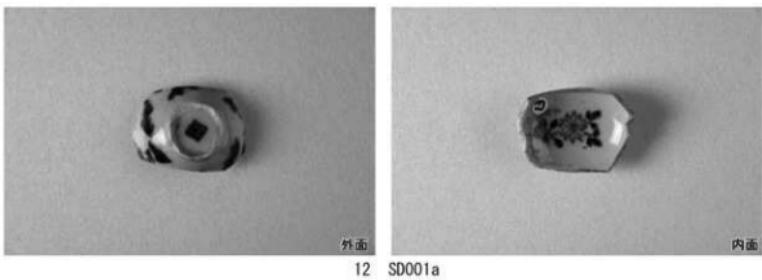
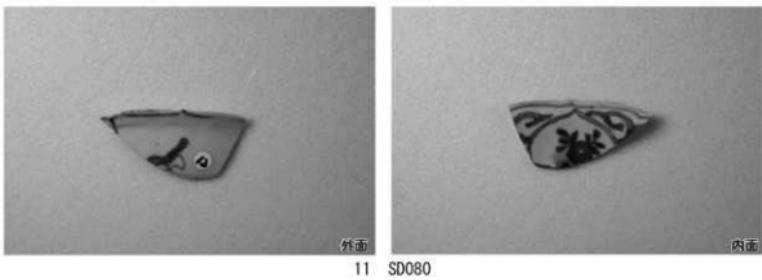


図3 富山城下町遺跡（旅籠町マンション地区）出土貿易陶磁器

## 2 西洋産陶磁食器の出土

西洋産陶磁食器が出土した地点は、現在のところ、旅籠町マンション地区から3点（2個体か）、総曲輪レガートスクエア地区周辺で5点である。

### （1）旅籠町マンション地区（図1 2008b 地点）

この地区出土の食器片は、1点は江戸後～幕末期の土坑（SK103）から、その他はいずれも石組の背割水路（SD001）からの出土で、江戸後期～近代にかけて利用された下水路である。

15は、オランダ製プリントウェアの鉢（Bowl）の口縁部片である。内面に唐草文様、外面に樹木が銅版転写によってプリントされている。内面の文様は愛知県陶磁資料館2011『阿蘭陀焼』p61の94「藍絵西洋人図鉢」（19世紀後半、ペトルス・レグー窯）の内面に転写された唐草文様とほぼ同じである。15の出土したSK103は下限を18世紀後半以降とみており、19世紀代を下限とするSK011に切られることから、19世紀代に土坑に埋まつたものとみられる。ペトルス・レグー窯で、日本向けに製作された品と推測される。

16、17は同一個体の皿とみられる。内面に川か堀に浮かぶ2艘の舟と建物（城郭か）、樹木が描かれ、大きい破片の裏面には「WAR…」の文字がみえ、「WARWICK」と描かれていた可能性が高い。文様はイギリス中部にある中世城郭（ウォリック城）をモチーフとしたもので、イギリスで多く生産されているが、オランダのマーストリヒトでも同様の文様が生産されている（注2）よう、どちらで生産されたかの特定には至っていない。背割水路からの出土で、江戸幕末～近代にかけて使用されたものである。

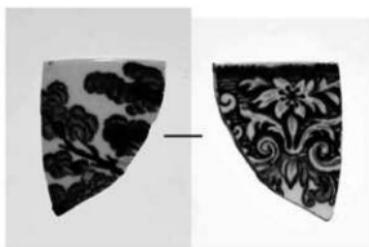
### （2）総曲輪レガートスクエア地区（2014d、2015b 地点）下水道立会地区（2015c 地点）

総曲輪レガートスクエア地区は、3期の調査が実施されている。今回食器が確認された地区は、1期地区周辺が主で富山城外堀が明治18～25年の間に埋まつた後、東西方向に石組水路が形成される。外堀の埋土や石組水路から幕末～近代の遺物が多数出土している。

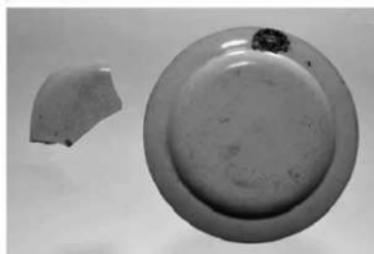
18は、産地不明の硬質陶器の皿である。底部見込みに緑色の銘がプリントされている。「R（Kか）.S.WORKS./BEST/STONE/IRON/□INA」の文字がみえる。内面の表面には細い直線的な刃物痕が残り、ナイフを用いた食器として使用されていた。石組水路内からの出土である。

19は、ウイロウパターンの深皿で高台が付かない平底タイプである。ウイロウ（Willow）は中国磁器にみる樓閣山水図をもとにイギリスで1780年前後に考案された最も名高いパターンである。出土した破片にもウイロウ（柳の木）、二羽の鳥、中国建築風の建物がみえる。このウイロウパターンはオランダのマーストリヒトにあるペトルス・レグー窯でも1854年から製作が始まわり、1965年頃まで7回銅版を新調しながら、同じデザインで製作され、日本にも多く舶載された。出土した破片の産地はイギリスかオランダのいずれかとみられ、19世紀後半に製作されたとみられる。1期地区の排水土中から採取されており、外堀の埋土か石組水路からの出土かは特定できていない。皿の内面に細い直線的な刃物痕がみえ、ナイフを用いた食器として使用されたとみられることから、明治に入つて西洋料理の食器として使用されたとみられる。代表的な出土例として、長崎市出島と蘭商館跡、小島養生所跡、沖縄県首里城跡、東京都港区上行寺跡・上行寺門前町屋跡遺跡、汐留遺跡、台東区上野忍岡遺跡群、大阪市北区広島藩蔵屋敷跡、佐賀藩蔵屋敷跡、浪速区恵比須遺跡など国内各地の近世後期の都市遺跡やアメリカ合衆国ニューヨークのファイブ・ボイント遺跡の移民居住区などにもみられる。

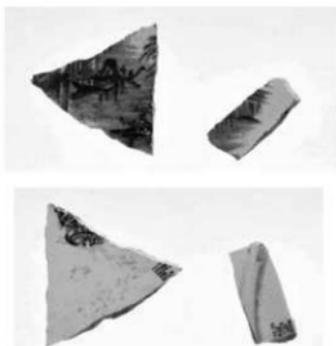
20、21は、イギリス産の硬質陶器の皿である。口縁が大きく屈曲し、外面底部に高台が付く。文様は内面の口縁部に2本と屈曲部に1本青色の園線を廻らせる。20の外面底部にはマークがプリントされている。上部に「ROYAL IRONSTONE CHINA」という文字、その下にライオン・盾・ユニコーンの図柄、その下に「JONSON BROS ENGLAND」とあり、イギリスジョンソンのブラザーズ社製のもので、1883～1913年に用いられた。長崎、沖縄、東京、大阪など各地で出土が確認されている。20は、2期地区の19世紀以降の近代土坑からの出土である。



15 (残存長4cm、厚さ0.25cm、口径約16cm)



左：19（残存11.6×8.1cm、厚さ0.4cm）  
右：伝世品（口径25.5cm（約10インチ）、  
高さ2.7cm、底径16.5cm）（個人蔵）



左：16（残存5.5×5.7cm、厚さ0.5cm）  
右：17（残存4.2×1.7cm、厚さ0.5cm）



左：東京都港区上行寺跡・上行寺門前町屋跡  
遺跡（港区教育委員会蔵） 右：16

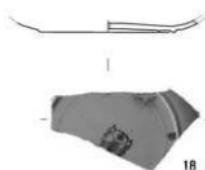


左：東京都港区上行寺跡・上行寺門前町屋跡  
遺跡（港区教育委員会蔵） 右：19



（参考）対青閣（『中越商工便覧』より）

図4 富山城跡・城下町遺跡出土西洋産陶磁食器と比較資料



18 富山城跡 (TYJ) SD01



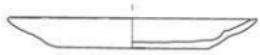
19 富山城跡 (TYJ)



18 のバックスタンプ



22 工事立会



21 富山城跡 (TYJ)



20 富山城跡 (TYJ) SK9



20 のバックスタンプ



図 5 富山城跡出土西洋産陶磁食器 (1:4)

22は、イギリス産の硬質陶器のウイスキー・ボトルの体部片である。体部外面に「...old scotchi whis.../...MEKANAM & SONS, .../SCOTLAND」の文字がみえる。総曲輪レガートスクエア地区の東側に隣接して南北に通る市道の下水道工事立会（富山市教委 2018b）で出土した。

### （3）西洋産陶磁食器出土からみた食の西洋化

今回紹介した西洋産陶磁食器が出土した富山市総曲輪四丁目・旅籠町地区周辺は明治維新、廃藩置県以降、官庁街（裁判所など）や学校、西洋式近代病院、医院、料亭などが次々と設置・開店する。それに伴い、医師や弁護士など多く居住する地区となる。総曲輪フェリオ地区の発掘調査では、「病院」銘の徳利瓶や「富山病院」（1877～99年）「日本赤十字社富山支部病院」（1907～09年）銘のガラス製薬瓶、「富山地方裁判所」銘の木札なども出土している。富山藩では、幕末に洋学重視の政策が図られ、早くから西洋医学の導入がなされていた。

一方、総曲輪レガートスクエア地区では、近代以降と考えられる動物遺体も出土している。イワガキ・シジミ・バイ・ハマグリなどの貝類が多いが、キジ科（ニワトリ）、イノシシ類（ブタ）といった食用に供された鳥獣類の骨も出土し、イノシシ類には刃物傷もみられた。

また、総曲輪にあった洋館の「対青閣」は1887年3月に営業を開始し、6月には築地精養軒からコックを雇い入れ、富山で最初に西洋料理を始めたとされる。食器類が出土した地区からは400～500mほど北の旧神通川沿いにあり、関連は不明だが注目される。

さらに、北陸街道に面した旅籠町は、近世から宿屋が集められ、1892年の商工人名録にも3軒の旅人宿がみえる。富山市街地の繁華街への玄関口でもあり、官庁街、病院など近代化の嚆矢となった機関が集まった地区であったことで早くから文明開化が進行し、西洋文化を受容する土壤が整っていた。出土した西洋産陶磁食器類は、19世紀後半に富山市街地の近代化がこの地区から始まつたことを物語る貴重な歴史資料といえる。

### 注

- (1) 朱沢謙 1998『龍泉窑青磁』藝術家出版社 p277
- (2) 東京大学埋蔵文化財調査室内秀樹准教授からご教示

### 文献

- 愛知県陶磁資料館 2011『阿蘭陀焼 憧れのプリントウェアー海を渡ったヨーロッパ陶磁』  
磪部直希・久田五月 2016『首里城出土のウイロー・パターンに関する工芸史的検討—19世紀銅板転写染付にみる伝播と越境—』『よのづち』浦添市文化財紀要第12号 浦添市教育委員会  
小田木富慈美 2013『19世紀におけるヨーロッパ産陶器の受容—幕末～明治時代の大都市出土資料より—』『大阪文化財研究所 研究紀要』第14号  
沖縄県立埋蔵文化財センター 2011『中城御殿跡』  
鹿島昌也 2016『富山県内の近代「病院」銘入り陶器瓶について』『富山市の遺跡物語』No.17  
近世貿易陶磁器調査・研究グループ 2013『近世都市江戸の貿易陶磁器資料集(1)』  
東京都江戸東京博物館編 1996『企画展 振り出された都市—江戸・長崎・アムステルダム・ニューヨーク』  
東京都・朝日新聞社ほか  
東京都埋蔵文化財センター 1997『汐留遺跡Ⅰ—旧汐留貨物駅跡地内の調査—』  
富山市教育委員会ほか 2010『富山城跡発掘調査報告書—総曲輪四丁目・旅籠町地区優良建築物整備事業に伴う富山城下町の発掘調査報告』  
富山市教育委員会 2017『富山城跡発掘調査報告書—総曲輪レガートスクエア整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(1)』  
富山市教育委員会 2018a『富山城跡発掘調査報告書—総曲輪レガートスクエア整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(2)』  
富山市教育委員会ほか 2018b『富山城跡発掘調査報告書—富山公共下水道松川第二排水区下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』  
長佐古真也 2018「江戸遺跡出土の西欧産陶磁製食器に関する一考察—幕末～近代前期における西洋文化受容の様相—」『遺物にみる幕末・明治』江戸遺跡研究会第31回大会 江戸遺跡研究会  
仲光克顕 2015『築地外国人居留地と食文化』『月刊考古学ジャーナル』No.675 ニューサイエンス社  
水間直二 1979『明治の富山をさぐる—総曲輪を中心として—』  
港区教育委員会ほか 2006『上行寺跡・上行寺門前町星跡遺跡発掘調査報告書』

## 研究報告 7 富山市一番町出土の近代徳利瓶について

鹿島 昌也（埋蔵文化財センター専門学芸員）  
宮田 康之（同嘱託学芸員）

### はじめに

令和元年 12 月に、富山市街地で唯一となった戦前から営業を続ける陶器商（最上陶器店）へうかがうと、10 月頃に一番町公民館北側の歩道内における下水道工事中にみつかった徳利を工事業者から預かっているとのことで、引き取させていただいた。

越前町交差点から西側の平和通りに沿った下水道工事立会を当センターで実施していたが、交差点から東側の掘削の際に出土したようである。

### 出土徳利瓶について

徳利瓶は、残存高 24.1 cm、底径 11.3 cm、最大幅 13.8 cm を測る。陶器製で体部外面に 5 行にわたり鉄軸で「◎ 醤油/清水商舗/一番町 / 弐百式十一/西」と文字

が記される。産地不明。底部中央に 3.1～3.7 cm の不整形な穿孔がある。

富山市郷土博物館所蔵の絵図や商工人名録から、創業が明治 40（1907）年の和洋酒・醤油商「清水酒類店」で使用されていた 1 升入りの醤油徳利であったことがわかる。

中心市街地の商店の変遷を物語る貴重な資料である。



図 1 出土した徳利瓶



図 2 大正 14 年『大日本職業明細図之内 富山市』(富山市郷土博物館蔵)



図 3 大正 5 年『富山市商工人名録』より

令和元年度 富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報

### 富山市の遺跡物語 №21

令和 2 (2020) 年 3 月 31 日発行

編集・発行 富山市教育委員会埋蔵文化財センター  
〒939-2798 富山市婦中町速星 754  
婦中行政サービスセンター 3 階  
TEL : 076-465-2146 FAX : 076-465-5032  
Email : maizoubunka=0@city.toyama.lg.jp

印 刷 有限会社ヤツオ印刷